

県立高等学校改革前期実施計画
(2019年度～2023年度)

2019年2月

福島県教育委員会

目 次

I 章 「県立高等学校改革前期実施計画」策定に当たって	… 1
1 「県立高等学校改革基本計画」について	… 1
(1) 「県立高等学校改革基本計画」策定の経緯	… 1
(2) 「県立高等学校改革基本計画」の内容	… 2
2 「県立高等学校改革前期実施計画」策定の趣旨	… 3
II 章 魅力と活力のある県立高等学校に向けて	… 5
1 本県の高等学校教育の質的向上に向けて	… 5
(1) 学力の向上を目指した取組の推進	… 5
(2) 様々な課題に果敢に取り組み、社会に貢献する自立した人材の育成	… 5
(3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進	… 6
(4) 生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育の推進	… 7
(5) 地域とともにある学校づくりの推進	… 7
(6) 安心して学ぶことのできる環境の支援	… 7
(7) 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進	… 8
(8) 高等学校における特別支援教育の推進	… 8
(9) ICT機器を活用した教育の充実	… 9
(10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置	… 9
2 社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり	…10
(1) 県立高等学校の再編整備	…10
① 県立高等学校の統合	…10
② 分校の募集停止	…11
(2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置	…11
(3) 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校(全日制課程)の特色化	…12
① 進学指導拠点校	…12
② 進学指導重点校	…13
③ キャリア指導推進校	…13
④ 地域協働推進校	…14
⑤ 職業教育推進校	…15
(4) コミュニティ・スクールの導入	…15
(5) 全日制高等学校における単位制の導入	…16
(6) 全日制高等学校における各学科の充実	…16
① 普通科・普通系専門学科	…16
② 総合学科	…17
③ 職業系専門学科	…17
ア 農業に関する学科	…18
イ 工業に関する学科	…18
ウ 商業に関する学科	…18

エ 水産に関する学科	…19
オ 家庭に関する学科	…19
カ その他の学科	…19
(7) 新しい形態の定時制・通信制高等学校の推進	…19
① 定時制高等学校	…19
② 通信制高等学校	…20
(8) 魅力ある中高一貫教育に向けて	…20
① 併設型中高一貫教育	…20
② 連携型中高一貫教育	…20
(9) 学校施設の計画的な整備	…20
Ⅲ章 各高等学校の改革の方向性	…21
1 本県の中学校卒業見込者数の推移	…21
(1) 今後の中学校卒業見込者数と学級数の推移	…21
(2) 前期実施計画期間中の中学校卒業見込者数と学級数の推移	…21
2 全日制課程の改革の方向性	…21
(1) 県北地区	…23
(2) 県中地区	…27
(3) 県南地区	…30
(4) 会津地区	…32
(5) いわき地区	…36
(6) 相双地区	…39
3 定時制・通信制課程の改革の方向性	…41
(1) 定時制高等学校	…41
(2) 通信制高等学校	…42
Ⅳ章 県立高等学校改革前期実施計画の推進に当たって	…43
1 社会の変化に対応した高等学校づくりの推進	…43
(1) 県立高等学校改革の具現化に向けて	…43
(2) 本県の高等学校教育の充実に向けて	…43
2 県立高等学校改革後期実施計画に向けた継続的な検証	…43
(参考資料1) 県立高等学校改革前期実施計画のグランドデザイン	
(参考資料2) 県立高等学校改革前期実施計画最終年度(2023年度)	
 における各地区の高等学校の配置	

I 章 「県立高等学校改革前期実施計画」策定に当たって

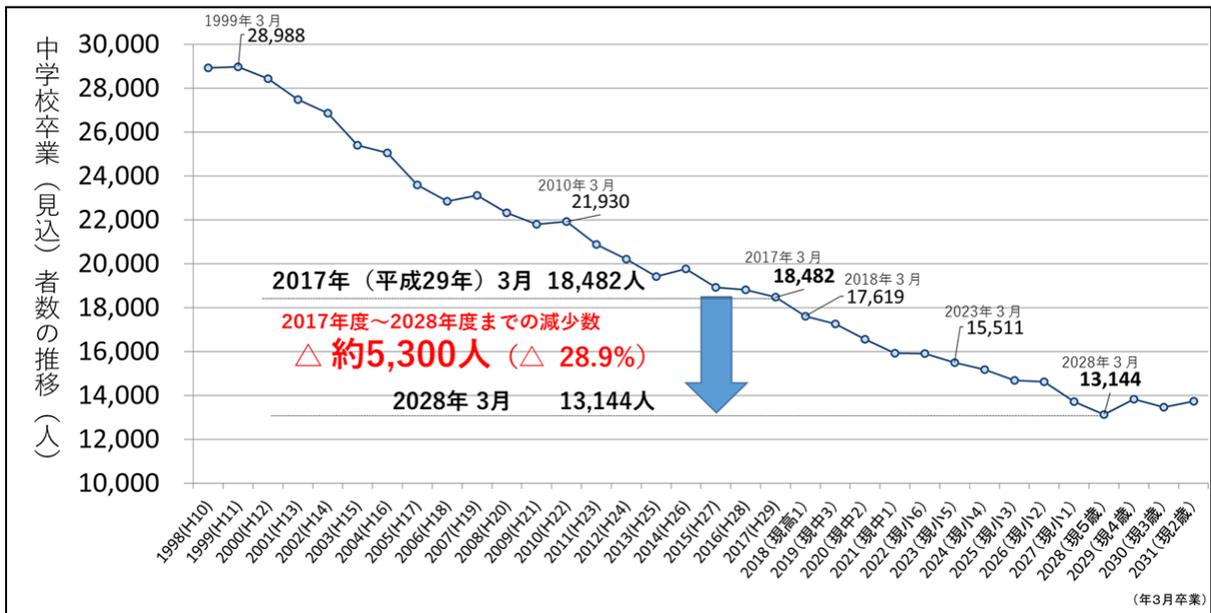
1 「県立高等学校改革基本計画」について

(1) 「県立高等学校改革基本計画」策定の経緯

グローバル化や技術革新の進展、生産年齢人口の急激な減少などにより、社会や職業の在り方そのものが変化しようとしている中、特に本県においては、人口減少、少子高齢化、過疎化への対応、東日本大震災・原子力災害からの復興・再生など、大きな課題を抱えています。こうした状況に伴い、本県の高等学校教育には、多様化する生徒の進路希望への対応、本県を支える人材の育成、地域との連携の一層の推進などが求められています。

このような中、少子化の進行により、本県の中学校卒業見込者は今後もさらに減少を続け、2017年（平成29年）3月の中学校卒業生数に比べて、2028年3月の卒業見込者数は、約5,300人減少する見込みです。この傾向は、全県的に今後も継続し、県立高等学校改革基本計画策定前の2017年（平成29年）3月の中学校卒業生数18,482人に比べて、2028年3月の卒業見込者数は、13,144人となり、約5,300人減少する見込みです（図1）。

図1 2028年3月までの中学校卒業見込者数の推移（全県）



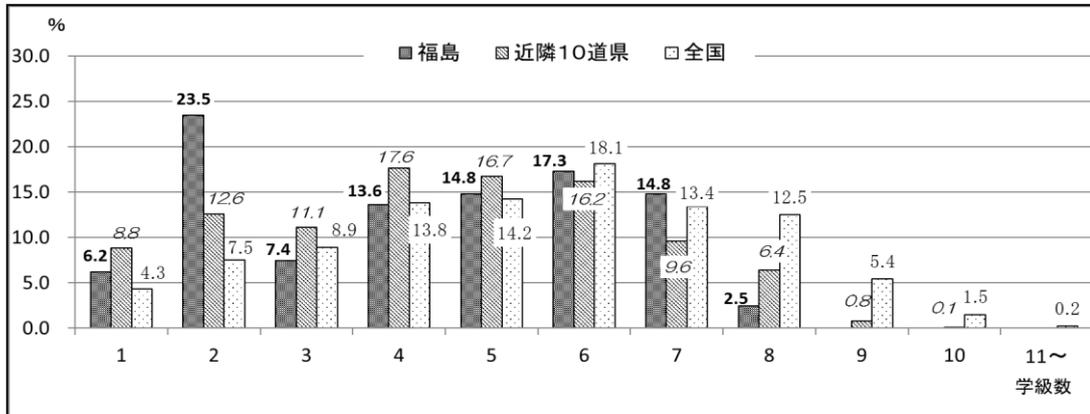
出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

本県では、東日本大震災・原子力災害の影響もあり、これまで人口の減少期であっても学校数がある程度維持したままで、中学校卒業生の減少に応じて学級数を減じてきた結果、1学年当たり3学級以下の小規模校が全日制課程全体の37.1%となり、全国平均20.7%に比べて高い割合となっています。特に、1学年当たり2学級規模の学校は23.5%を占め、全国平均7.5%に比べて突出して高い割合となっています（図2）。

これまでのような学級数を減じる対応だけでは限界を迎えており、今後高等学校教育の質を維持・向上していくためには、高等学校改革は避けて通れない課題

となっています。学習指導要領の改訂※や高大接続改革※など、我が国の高等学校教育の大きな転換期であることに加え、東日本大震災・原子力災害からの復興・再生など、本県独自の課題への対応を迫られており、本県の高等学校教育は、大きな転機に直面しています。

図2 1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典：「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」（富山県教育委員会調べ）をもとに作成。
 分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

このため、県教育委員会は、福島県学校教育審議会※に対して、2016年（平成28年）5月、「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」諮問を行い、2017年（平成29年）6月に答申を受けました。この答申を踏まえ、昨年5月に、今後10年間の県立高等学校改革の方向性を示し、計画的かつ着実に改革を推進するための長期計画として、「県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）」を策定しました。

（2）「県立高等学校改革基本計画」の内容

基本計画では、課題の山積した本県であるからこそ、現状をチャンスと捉え、「**本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること**」を計画の理念としました。この理念をもとに、高等学校における学びを通じて、地域に軸足を置きながら多様な主体と関わり、自己のアイデンティティと郷土への誇りを育み、生徒一人一人の志を実現させることができるよう、教育の質を向上させることとします。そのために、**各高等学校の新たな在り方を検討し、再編整備と特色化を図る中で、より良い教育環境を提供することによって、生徒一人一人の資質や能力を向上させることのできる魅力ある高等学校づくりを推進すること**を目標に、以下の4つの基本方針と17の取組に沿って高等学校教育の充実を図ることとしました。

※ 学習指導要領の改訂

高等学校の学習指導要領は、2017年度（平成29年度）末に改訂され、2019年度からの移行期間を経て、2022年度から年次進行で実施される。

※ 高大接続改革

グローバル化の進展、技術革新、国内における生産年齢人口の急減などに伴い、予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要とされる中、学力の3要素（①知識・技能の確実な習得、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を確実に育成・評価するための、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の三者の一体的な改革のこと。

※ 福島県学校教育審議会

2002年（平成14年）に改正された福島県学校教育審議会条例に基づいて、教育委員会に設置された附属機関のこと。

【県立高等学校改革基本計画の4つの基本方針と具体的な取組】

基本方針1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む高等学校教育の推進

- (1) 生き抜く力を支える確かな学力の向上に向けた取組の推進
- (2) 豊かなこころを育成する取組の推進
- (3) 体力の向上や健康増進に向けた取組の推進
- (4) 様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する取組の推進
- (5) 地域と連携し、地域の特色を生かした学校づくりの推進

基本方針2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

- (6) 多様な学習機会の充実
- (7) 中高一貫教育の推進
- (8) 学びのセーフティネットの推進
- (9) 一人一人の夢を実現させる教育力の向上

基本方針3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

- (10) 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模
- (11) 望ましい学校規模への再編整備の推進
- (12) 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- (13) 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- (14) きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- (15) 学校の特色化と情報発信

基本方針4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の向上

- (16) 過疎・中山間地域の学習機会の確保
- (17) 過疎・中山間地域における教育環境の向上

2 「県立高等学校改革前期実施計画」策定の趣旨

県立高等学校改革基本計画をより実効的、計画的に推進し、基本計画の理念を具現化するために、より具体的な高等学校改革の方向性と再編整備の具体的な対象校を含む5年単位の実施計画（短期計画）を前期・後期に分けて策定することとしました。本計画は、そのうちの2019年度から2023年度までの前期実施計画です。

策定に当たっては、第6次福島県総合教育計画※の後半4年間における取組を重点化した「頑張る学校応援プラン」との整合性を図るとともに、県立高等学校改革基本計画の4つの基本方針に沿って、本県の高等学校全体の在り方を示した上で、各地区の中学校卒業見込者数の今後の推移、近年の各高等学校の志願動向や中学3年生の進路希望等を考慮しました。また、各高等学校が所在する地域の実状や本県で求められる人材育成の観点等も考慮し、すべての県立高等学校の今後5年間の方向性を示すこととしました。

なお、本計画の実施状況を検証するとともに、その後の社会情勢の変化等を勘案しながら、本計画期間の後半に「県立高等学校改革後期実施計画」を策定し、2024年度から2028年度までの県立高等学校改革を推進することとします。

※ 第6次福島県総合教育計画

教育行政の効率的かつ効果的な推進に資するため、本県では総合教育計画を1966年(昭和41年)以来策定している。第6次計画は、2010年度(平成22年度)から2020年度までの10年間であるが、東日本大震災と原子力災害からの復旧・復興のための施策を盛り込み、2013年(平成25年)に改定した。

【県立高等学校改革計画のスケジュール】



II章 魅力と活力のある県立高等学校に向けて

1 本県の高等学校教育の質的向上に向けて

基本計画に示された4つの基本方針を具現化し、魅力と活力ある学校づくりを推進するための県立高等学校改革の方向性について、教育の質的向上の観点から(1)～(10)に整理して示します。

(1) 学力の向上を目指した取組の推進

[基本計画との関連]

基本方針1 (1)生き抜く力を支える確かな学力の向上に向けた取組の推進

[取組内容]

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、探究型や課題解決型の学習の充実を図るとともに、指導方法や学習評価の改善を行い、知識・技能の確実な習得だけでなく、社会で自立的に活動していくための思考力・判断力・表現力や他者と協働する態度など、新しい時代に求められる学力の向上を図ります。
- 高等学校での学びをもとにして、生徒が自己の在り方や生き方を振り返りながら、進路についての関心を深め、変化する社会の中で生涯にわたって学び続ける意欲や態度を身に付けられるよう、各校が教育活動の充実に努めます。
- 学力向上に関する事業をとおして、各校の特色及び生徒の実態に応じた役割や使命を踏まえながら、学力向上や進路実現の取組を支援します。
- 各校の教育目標の実現に向けて、生徒や地域の実態を踏まえ、学校全体の教育課程を編成・実施・評価し、改善を図る、カリキュラム・マネジメントの定着を図ります。

(2) 様々な課題に果敢に取り組み、社会に貢献する自立した人材の育成

[基本計画との関連]

基本方針1 (4)様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する取組の推進

[取組内容]

- 課題先進県である本県において、生徒自らが地域の一員として**地域課題の解決に取り組むアクティブ・ラーナー※**としての資質を育むことにより、地域との共生を図り、本県復興を担うたくましい人材を育成します。
- 職業系専門学科において、資質・能力を育み、高い専門性を身に付けさせ、**地域に貢献できる産業人材の育成**を図ります。
- 生徒が、自らの適性を踏まえて進路について具体的な見通しをもって自己決定

※ アクティブ・ラーナー（アクティブ・ラーニング）

アクティブ・ラーナーは、課題に正面から向き合い、正解のない問いの解決に向けて自ら学び、行動することができる人のこと。アクティブ・ラーニングは、教師による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者が課題の発見・解決に向けて能動的に学ぶ指導・学習法の総称。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたアクティブ・ラーニングの推進をとおして、学習者も教師も「アクティブ・ラーナー」としての姿勢を持つことが求められる。

できるように、職業等に関する体験活動や研修会、進路指導相談など、**キャリア教育※の視点を踏まえた進路指導に関する取組の充実**を図ります。また、地域企業におけるインターンシップや、福島で働くことの意義などについての講話、地域医療現場での体験学習などをおして、地域産業や職業を理解させる取組を行い、本県で生活基盤を築こうとする生徒の志を養います。

- グローバル社会で活躍する人材育成のため、国際理解教育を推進するとともに、4技能のバランスの取れた**英語力及びコミュニケーション能力を向上**させます。また、教員の英語指導力のさらなる向上を図ります。
- **福島イノベーション・コースト構想※**を担う**人材の育成**のため、大学や地域企業等と連携し、対象校の特色を生かした新たな教育プログラムを開発して取り組むとともに、県内各地域への普及を進めます。
- 「ふくしま放射線教育・防災教育指導資料」（2017年3月発行）の活用などにより、東日本大震災や原子力災害の教訓を継承し、放射線に関する基礎的な知識及び災害や防災についての正しい知識を身に付けさせます。また、災害発生時に自ら考え、判断し、行動する力を育成し、地域社会の一員として地域の安全に役立つことができる態度や能力の育成を図ります。

(3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進

[基本計画との関連]

基本方針1 (2)豊かなこころを育成する取組の推進

[取組内容]

- 体験的な活動や「ふくしま道徳教育資料集」（2015年11月発行）の活用などにより、教育活動の中で、人間としての在り方生き方について、生徒が自ら考え、自覚を深めて自己実現を図る機会を積極的に作り、**道徳的実践意欲と態度の育成**に努めます。また、他者の多様な個性や価値観を受け入れ、人権を尊重する態度の育成に努めます。
- 生徒の社会貢献活動を支援し、東日本大震災等を経験したからこそ芽生えた他者を思いやる気持ちや優しさ、郷土への誇りをより一層育みます。
- 各校が策定した「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、家庭や地域と連携しながら、**組織的にいじめ問題に取り組みます**。
- **生徒指導アドバイザー**を適宜派遣するなど、生徒指導上の諸問題の未然防止や的確な対応の支援を行います。

※ キャリア教育

社会の一員としての役割を果たすとともに、生徒それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、社会的・職業的に自立して生きていくために必要な基盤となる能力や態度を育てる教育のこと。キャリア教育は、発達段階に応じて、就学前から、初等中等教育・高等教育、さらに若者を支援する様々な機関においても実践されるものである。

※ 福島イノベーション・コースト構想

東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業基盤の再構築を目指す国家プロジェクトのこと。廃炉やロボット技術に関する研究開発拠点の整備を進め、再生可能エネルギーや次世代エネルギー技術の積極導入、先端技術を活用した農林水産業の再生、さらには、未来を担う人材育成、研究者等の来訪者や立地企業の従業員等に向けた生活環境の確保や必要なインフラなど様々な環境整備が推進されている。

- 2017年（平成29年）に発表した「ふくしま高校生スマホ宣言※」をもとに、生徒一人一人が、ICT機器を安全かつ適切に利用できるよう**情報モラル教育**を推進します。

（4）生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育の推進

〔基本計画との関連〕

基本方針1 （3）体力の向上や健康増進に向けた取組の推進

〔取組内容〕

- 生徒が自らの健康状態に関心を持ち、学校での保健指導や体育指導の内容を生かしながら運動習慣や食習慣、生活習慣などの改善に積極的に取り組む契機となるよう、**健康増進に向けた取組**を推進します。
- **オリンピック・パラリンピック教育**※を実施・展開し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの機運を高めるとともに、終了後も、スポーツの価値や国際・異文化理解等の多面的な教育を図ります。

（5）地域とともにある学校づくりの推進

〔基本計画との関連〕

基本方針1 （5）地域と連携し、地域の特色を生かした学校づくりの推進

〔取組内容〕

- 各校のカリキュラム・マネジメントにおいて、社会に開かれた教育課程のもと、地域の教育資源を積極的に活用した教育活動を展開することによって、**地域の特色を生かした教育内容の充実**を推進します。
- 高等学校が、近隣市町村と連携を強化し、積極的に地域振興に関わり、地域活性化に貢献するなど、**高等学校での学びを通じた地域づくり**の視点を教育活動に生かし、地域を支える人材育成を推進します。
- 地域とともにある特色ある学校づくりに資するため、地域の声を学校運営や教育活動に反映させる**コミュニティ・スクール**※の導入を推進します。

（6）安心して学ぶことのできる環境の支援

〔基本計画との関連〕

基本方針2 （8）学びのセーフティネットの推進

〔取組内容〕

- 就学支援金や奨学金等の活用を通して、経済的理由により修学困難と認められる生徒に対して**経済的な負担軽減策**を継続して行います。

※ ふくしま高校生スマホ宣言

県内の高校生が考えた、スマートフォン等の正しい利用のための宣言。スマートフォン等の利用による生活習慣の乱れやネットいじめ、犯罪被害などの問題について、県内の高校生が自分のこととして捉え、県民全体で共有できる宣言づくりに取り組み、作成された。

※ オリンピック・パラリンピック教育

オリンピックやパラリンピック等の国際大会が国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること、共生社会の実現にも寄与していることなど、スポーツの意義や役割を学ぶ教育活動のことで、新学習指導要領に盛り込まれた。

※ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことにより、「地域と共にある学校」を実現するための制度の一つ。具体的には、「学校運営協議会」（学校と地域の協議の場）を設置している学校のこと。

- 生徒の抱える諸問題にきめ細かく対応するため、**スクールカウンセラー（ＳＣ）※**や**スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）※**等、専門的な職員を効果的に配置します。さらに、電話相談やＳＮＳ※等を活用した相談体制を継続し、問題の深刻化を未然に防止します。
- **放課後における生徒の居場所づくり**の取組を、関係機関・地域と連携しながら推進します。

（７） 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進

[基本計画との関連]

基本方針２ （９）一人一人の夢を実現させる教育力の向上

[取組内容]

- 本県ならではの教育を推進するため、2018年（平成30年）に策定した「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を踏まえ、**体系的かつ効果的な教員研修を実施**し、教員の資質向上を図ります。
- **互見授業※**や**校内研修**を通して同僚間で学び合う学校の雰囲気醸成し、教員自らが学び続ける**アクティブ・ラーナー**としての資質の向上を図ります。
- 大学や地域企業等との連携など、**外部の人材を効果的に活用**し、学校の教育力の向上を図ります。

（８） 高等学校における特別支援教育の推進

[基本計画との関連]

基本方針２ （６）多様な学習機会の充実

[取組内容]

- 小・中学校等において特別支援学級に在籍していた生徒や通級による指導※を受けていた生徒が、高等学校にも在籍していることから、各校に、特別支援教育に関する委員会を設置するとともに、特別支援教育コーディネーター※の任命や学習支援員の配置等、**全校的な教育支援体制の整備と充実**に努めます。
- 特別な支援を要する各校の生徒に対して、**県立特別支援学校**に設置された地域

※ スクールカウンセラー（ＳＣ）

いじめや不登校などの児童生徒の問題の解決や震災等の心のケアに資することを目的とした、臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する職員のこと。

※ スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）

不登校、いじめ、暴力行為、発達障がい、家庭環境、児童虐待などの困難を抱える児童生徒や被災した児童生徒の問題の解決を目的とした、社会福祉等の専門的な知識・経験を有する職員のこと。

※ SNS

Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略で、インターネットを介して人間関係を構築できるスマートフォンやパソコン用のサービスの総称。

※ 互見授業

教員が校内でお互いの授業を公開し、指導の工夫などについて学び合うことで、授業力の向上を図る研修のこと。

※ 通級による指導

通常学級に在籍する児童・生徒が、障がいに応じた**補充指導**などを別室で受ける制度のこと。1993年度（平成5年度）に小中学校で制度化され、高等学校においても引き続き通級指導を必要とする生徒に対応するため、2018年度（平成30年度）に高等学校においても通級による指導が実施できるように制度化された。

※ 特別支援教育コーディネーター

県内の公立学校において、教職員、保護者、校外の関係機関と連携し、校内の特別支援教育を推進するための校務分掌の1つ。全ての県立高等学校に置かれている。

支援センターや教育支援アドバイザー※を活用し、小・中学校から高等学校卒業まで切れ目のない支援に努めます。

- 特別支援学校や関係機関と連携し、在籍する生徒の障がいの状況に応じた指導と必要な支援体制の整備に努めるとともに、**通級による指導**について、他県の状況やモデル校の成果等を踏まえ、適切な実施に向けて検討を進めます。

(9) ICT機器を活用した教育の充実

[基本計画との関連]

基本方針1 (1)生き抜く力を支える確かな学力の向上に向けた取組の推進

基本方針4 (17)過疎・中山間地域における教育環境の向上

[取組内容]

- 授業等でのネットワーク使用量の増加に対応するシステムの改良、情報セキュリティの維持など、**安定したインターネット利用環境を提供**します。
- タブレット端末やテレビ会議システムなどの整備により、**教育活動におけるICT機器の活用を推進**します。また、ICT機器を活用した授業の実践事例の公開や教員研修により、個に応じた学びや協働的な学びなど、学習場面に応じた活用法を充実させます。
- 福島イノベーション人材育成実践事業※における、ICT機器を活用した探究的な教育プログラムの実践成果を各校に普及させます。
- 授業や講演会などの動画コンテンツを整備するとともに遠隔授業などICT機器を活用した学習支援により、生徒の多様な学習機会を確保します。

(10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置

[基本計画との関連]

基本方針3 (14)きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備

[取組内容]

- 学級数の減少に伴う教職員数の減少により、学校の教育活動が制限され、教育の質の低下に繋がらないよう、一定の教職員数を確保し、チーム・ティーチング、習熟度別学習、40人学級編制の見直しを含む少人数教育の検討など、個に応じた**きめ細かな指導が充実するよう教育環境の整備**に努めます。
- 統合校において、統合後の学校運営や教育活動が充実したものとなるよう、一定の教職員数を確保し、教育環境の整備を図ります。

※ 地域支援センターや教育支援アドバイザー

地域支援センターは、特別な支援を必要とする子どもたちの就学前から社会に出るまでの切れ目のない支援体制構築のために、すべての特別支援学校に設置されている相談窓口のこと。教育支援アドバイザーは、地域支援センターに配置した、相談体制の充実や関係機関との連携強化を図る職員のこと。

※ 福島イノベーション人材育成実践事業

福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成のため、高等学校において、大学・企業・自治体との連携や教育環境の整備によって、魅力あるプログラムを開発・実践する県の事業。

2 社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり

本計画では、社会の急激な変化に対応するとともに、県立高等学校改革基本計画において示した「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくり」の理念を実現させるために、すべての県立高等学校の在り方を見直し、魅力化を図ります。

具体的には、以下の(1)～(9)のとおり、各校の生徒の進路希望や求められる学びの在り方、地域における学校の役割などを考慮して、各校の位置づけや特色を明確にするとともに、今後ますます進行する少子化の流れも見据えながら、再編整備等に取り組むことにより、生徒一人一人の資質や能力を向上させることのできる魅力ある高等学校づくりを進めます。

(1) 県立高等学校の再編整備

[基本計画との関連]

基本方針3 (10) 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模

(11) 望ましい学校規模への再編整備の推進

[取組内容]

- 生徒の社会性を養うことのできる一定の集団規模を確保しつつ、生徒一人一人に目の行き届いたきめ細かな指導を充実させるという観点から、**望ましい学級規模を1学年4～6学級とし、3学級以下の学校について再編整備を推進**します。
- 統合校については、対象となる各校の教育活動やこれまで地域の中で果たしてきた役割等を踏まえ、望ましい学校規模の中で可能となる教育内容を十分に検討し、学校の魅力化を図ります。
- 学校の再編整備によって、遠距離通学や自宅外からの通学が必要となる生徒に対しては、負担軽減の措置を検討します。
- 前期実施計画の最終年度である2023年度までの生徒の志願動向や、後期実施計画の最終年度である2028年度までの地域の中学校卒業見込者数の推移等を考慮しながら、後期実施計画においても高等学校の再編整備を検討します。

① 県立高等学校の統合

前期実施計画においては、以下のとおり、統合を実施します。

※ これ以降の表においては、「高等学校」を省略して学校名を記載します。

統合する高等学校と統合の方向性（統合の詳細は、Ⅲ章2、3）

学校名	2018年度(H30)の学科と 1学年当たりの学級数		統合の方向性 (学科・学級数)	
	学科	学級数	学科	学級数
梁川	普通	2	普通	6
保原	普通4・商業1	5		
二本松工業	工業	3	工業3・家庭1	4
安達東	総合	2		
須賀川	普通4・商業1	5	普通	6
長沼	普通	2		
白河実業	農業1・工業4・商業1	6	工業5・商業1	6
塙工業	工業	2		

喜多方	普通	4	普通	5
喜多方東	普通	2		
耶麻農業	農業 1・家庭 1	2	農業	4
会津農林	農業	3		
大沼	普通	3	普通	4
坂下	普通	2		
田島	普通	2	総合	3
南会津	普通	2		
湯本	普通	6	普通	6
遠野	普通	2		
小名浜	普通 1・商業 1	2	普通 1・商業 1 ・水産 3	5
いわき海星	水産	4		
相馬東	総合	4	総合	5
新地	普通	2		
保原(定時制)	普通(定時制)	1	普通(定時制)	1
福島中央	普通(定時制)	1		

② 分校の募集停止

安積高等学校御館校と修明高等学校鮫川校 2 校については、地元からの入学者が減少し、過疎・中山間地域の学習機会の確保という当初の役割からその在り方が変化していることから、生徒の志願動向も考慮して募集停止とし、隣接する高等学校においてこれまでの教育活動を継承します。

また、新たな分校は設置しないこととします。

(2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置

[基本計画との関連]

基本方針 4 (16) 過疎・中山間地域の学習機会の確保

[取組内容]

- 過疎・中山間地域の高等学校において、地理的条件や公共交通機関の状況等から、統合により近隣の高等学校への通学が極端に困難になり、当該地域の生徒の教育機会が著しく損なわれる場合や、地元からの入学者の割合が著しく高い場合など、特別な事情がある場合には、**1 学級本校化を例外的に実施**することとし、以下の 6 校をその対象校とします。

1 学級規模の本校とする高等学校(湖南・西会津・川口は、2018 年度に先行実施)

川俣	湖南	猪苗代	西会津	川口	只見
----	----	-----	-----	----	----

- ・ タブレット端末等の I C T 機器の活用や遠隔授業の実施、学校行事等における近隣の学校との交流や連携など、教育内容の魅力化に努めるとともに、引き続き、地域の支援と協力のもとに、地域と連携しながら教育活動を進めます。

- ・ コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入を検討し、地域との協働で教育環境の充実を図ります。
- ・ 対象校の入学者数が募集定員の1/2以下になるなど、教育の質の維持が著しく困難になる場合、あるいは地元からの入学者の割合が著しく低い場合には、存続について検討します。

（3） 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校（全日制課程）の特色化

〔基本計画との関連〕

- 基本方針3 （12）進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
 （15）学校の特色化と情報発信

〔取組内容〕

- 様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する教育活動の推進や、多様な学習内容の確保及び教育の質の向上の観点から、全日制課程の各高等学校を、**進学指導拠点校、進学指導重点校、キャリア指導推進校※、地域協働推進校、職業教育推進校**のいずれかに位置づけ、それぞれの学校において、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動を展開します。

① 進学指導拠点校

- ・ 本県の学習指導や進学指導のリーダー校として、難関大学や医学部志望者の進路実現を図るための取組を行い、各分野において国内外で活躍し、未来を牽引できる人づくりを担う**進学指導拠点校**として、以下の4校を位置づけ、進学指導重点校（次項②に記載）と連携して県内の教育力向上を図ります。

福島	安積	会津	磐城
----	----	----	----

- ・ 生徒の興味・関心や進路希望等に対応した多様な学習内容が選択できるよう、**単位制※の高等学校へ転換**します。
- ・ 新しい学習指導要領と高大接続改革に対応した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた質の高い授業を展開することによって、**様々な課題に主体的に取り組み、他者と協働しながら課題を解決する態度を育成**します。
- ・ 生徒一人一人の思考力・判断力・表現力の向上とともに、大学での学びにつながるような知的探究心の喚起を目指し、本質的で深い学びへ導く**探究的な授業を積極的に展開**します。
- ・ 地域課題に関する討論や発表などを通じて、地域、社会、政治などへの関心を高め、社会の一員として積極的に社会に参画する態度を養う**シティズンシップ教育**を推進します。
- ・ 外国語で意見を主張できる発信力やコミュニケーション力を高める取組を展開し、**グローバルな視点から思考**することで、国内外における各分野のトップリーダーとして活躍できる能力を育成します。

※ キャリア指導推進校
p. 13 参照。

※ 単位制
学年による教育課程の区分を設けず、定められた単位を修得すれば卒業が認められる教育課程のこと。一人一人の学習計画に基づいて、それぞれの興味・関心等に応じた科目を選択でき、学年の区分なく自分のペースで学習ができるなどの特徴がある。

- 進学指導拠点校が、学習指導や進学指導のノウハウを**進学指導重点校等と共有**することで、各校の**進学指導力の向上**を図るとともに、教員の学習指導や進路指導の力をさらに高め、生徒の進路希望を実現します。

② 進学指導重点校

- 各地区で進学指導における中心的役割を果たすとともに、生徒の高い志を支援し、質の高い学びをとおして進路目標を実現できる学力を定着させ、各分野のリーダーとして、地域の発展に貢献できる人づくりを担う**進学指導重点校**として、以下の16校を位置づけます。

県北地区	県中地区	県南地区	会津地区	いわき地区	相双地区
橘 福島西 福島東	安積黎明 郡山東 郡山 須賀川桐陽	白河 白河旭	葵 会津学鳳 喜多方・喜多方東 統合校	磐城桜が丘 いわき光洋	相馬 原町

(前期実施計画最終年度(2023年度)の学校の状況を表し、統合校の名称は仮称である。)

- これまでの自校の取組を発展させることに加えて、**進学指導拠点校と連携**しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や進学指導に関する情報等を共有し、**進学指導体制を強化**します。
- 探究的な学びを積極的に導入**することにより、生徒の知的探究心を高め、主体性や科学的・論理的に思考する力を向上させます。
- 生徒一人一人の学びたい学問や就きたい職業を見据えた**丁寧な進路指導**により、生徒の意欲を引き出し、上級学校への学びへとつなげます。
- 生徒の進路希望に応じた進学指導に対応できるよう、特色あるコースの設置などを検討します。また、各地区における学校の役割や取組状況等を考慮し、必要に応じて単位制の高等学校への転換を検討します。
- 地区内に進学指導拠点校を設置しない県南地区と相双地区については、白河高等学校及び相馬高等学校において、進学指導拠点校と同様に、本質的で深い学びへ導く探究的な授業を積極的に展開し、進学指導力の強化を図ります。

③ キャリア指導推進校

- 大学等への進学や就職など、幅広い生徒の進路希望や生徒の学習ニーズに対応した教育活動の充実を図り、地域を支える核として社会に貢献できる人づくりを担う**キャリア指導推進校**※として、以下の21校を位置づけます。

※ キャリア指導推進校

この学校群は、地域社会をはじめとする学校内外の様々な関わりをとおした体験的なキャリア教育を展開することによって、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けた丁寧な指導を推進することを特徴とすることから、「キャリア指導推進校」という名称とする。

県北地区	県中地区	県南地区	会津地区	いわき地区	相双地区
福島北 福島南 梁川・保原 統合校 安達 本宮	あさか開成 須賀川・長沼 統合校 石川 田村 船引 小野	光南	大沼・坂下 統合校 田島・南会津 統合校	いわき総合 湯本・遠野 統合校 勿来 好間 四倉	ふたば未来学園 相馬東・新地 統合校

(前期実施計画最終年度(2023年度)の学校の状況を表し、統合校の名称は仮称である。)

- ・ 大学や地域企業等、地域の教育資源を活用した体験的な教育活動を展開し、生徒が自らの適性について考え、主体的に自分の進路を切り拓いていこうとする態度を養い、生徒の社会的・職業的自立を支援する指導を充実させます。
- ・ 地域と連携した地域課題解決の探究学習に取り組むことによって、地域社会を支える核となって活躍し、社会に貢献できる人材を育成します。
- ・ 生徒の学習の定着状況に応じて、少人数指導やチーム・ティーチングなどの丁寧でわかりやすい授業の展開とアクティブ・ラーニングの積極的な導入により、確かな学力と学ぶ意欲の養成を図ります。
- ・ 地域の実状や学校の取組状況等に応じて、コミュニティ・スクールの導入を検討します。
- ・ ふたば未来学園高等学校については、SGH（スーパーグローバルハイスクール）※指定校としての取組や創造的復興教育の先進的な実践の成果を他校と共有し、具体的な指導法や評価法などについて普及・発展させます。

④ 地域協働推進校

- ・ 地域との協働による教育内容の充実により、生徒の進路希望の実現を図り、地域創生の核となり社会に貢献できる人づくりを担う地域協働推進校として、以下の6校を位置づけます。

川俣	湖南	猪苗代	西会津	川口	只見
----	----	-----	-----	----	----

- ・ 生徒の学習状況に応じた丁寧でわかりやすい授業とアクティブ・ラーニングの積極的な導入はもとより、地域との協働による教育活動により、それぞれの地域ならではの教育内容を展開します。
- ・ 地域の教育資源を活用し、地域が抱える課題の解決に積極的に取り組む探究的な活動により、地域への愛着や貢献意識を高めます。
- ・ 地域との協働をさらに推進するため、地域の声を学校運営や教育活動に反映させるコミュニティ・スクールの導入を推進します。

※ SGH（スーパーグローバルハイスクール）

高等学校等におけるグローバルリーダー育成に資する教育をとおして、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、国際的に活躍できる人材の育成を図る文部科学省の事業のこと。

⑤ 職業教育推進校

- 今後の本県の産業振興の方向性や地域の産業構造を踏まえ、大学や地域企業等との連携により、専門性の高い学びや技術の習得が可能となる職業教育※を推進し、地域産業の振興や福島の復興を支える人づくりを担う、**職業教育推進校**として、以下の21校を位置づけます。

県北地区	県中地区	県南地区	会津地区	いわき地区	相双地区
福島商業 福島明成 福島工業 二本松工業・ 安達東統合校	郡山商業 郡山北工業 清陵情報 岩瀬農業	白河実業・ 塙工業統合校 修明	若松商業 会津工業 喜多方桐桜 耶麻農業・会津 農林統合校	平工業 平商業 小名浜・いわき 海星統合校 磐城農業 勿来工業	相馬農業 小高産業技術

(前期実施計画最終年度(2023年度)の学校の状況を表し、統合校の名称は仮称である。)

- 職業人として必要な知識・技能はもとより、時代のニーズに対応した先進的な技術にも触れられるよう、大学やテクノアカデミー、地域企業等との連携を一層深め、実践的な学習の場を提供し、**高い専門性を身に付けるための職業教育**を推進します。
- 地域企業等の協力に基づく実践的なインターンシップなどを通して**職業観や勤労観を醸成する取組**を展開し、本県に生活基盤を築き、本県産業を支える人材を育成します。
- 福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成**のための教育環境の整備や教育プログラムの実践の成果を他校と共有し、職業教育の充実を図ります。
- 小高産業技術高等学校**については、SPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)※指定校としての取組やクロストレーニング※などの教育内容の成果を他の職業教育推進校と共有し、先進的な職業教育を普及・発展させます。

(4) コミュニティ・スクールの導入

[基本計画との関連]

基本方針1 (5) 地域と連携し、地域の特色を生かした学校づくりの推進

[取組内容]

- 地域協働推進校においては、過疎・中山間地域の学校など「地域の核」としての役割を果たしてきたことを踏まえ、地域の代表や地域創生の担い手等から構成される学校運営協議会を設置し、学校と地域がそれぞれの現状や課題を情報共有

※ 職業教育

一定のまたは特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育のこと。

※ SPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)

産業界で必要となる高度な専門知識や技術に対応するため、専門高校等において、大学・研究機関・企業等との連携強化により、社会の変化や産業の動向等に対応した、高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的な職業人の育成を図る文部科学省の事業のこと。

※ クロストレーニング

他学科の学習内容を計画的に取り込むことで、学びをより深化させ、高度な学びへつなげる教育プログラムのこと。複数の学科で互いに他学科の学びが組み合わさりクロスした教育課程になる特徴がある。

し、地域の声を学校運営や教育活動に反映させる**地域協働型コミュニティ・スクールの導入**を段階的に行い、地域の課題解決に向けた教育活動を通して、地域の活性化に貢献し、地域の将来を担う人材育成に取り組みます。

- 地域と密接に連携しながら教育活動を推進するキャリア指導推進校等においても、地域協働型コミュニティ・スクールの導入を検討します。
- 職業教育推進校などでは、教育目標に即した学校の特色化に資する観点から、一つのテーマに焦点を当てて、地域の代表や地域企業、大学の教員等から構成される学校運営協議会を設置し、地域産業の特色を踏まえた教育活動の充実を図る**テーマ型コミュニティ・スクール**の導入を検討し、地域産業の振興に貢献できる人材育成に取り組みます。

(5) 全日制高等学校における単位制の導入

[基本計画との関連]

基本方針3 (12) 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置

[取組内容]

- 生徒の学習ニーズに応じて、探究型や課題解決型学習による、主体的で質の高い深い学びができるよう、**進学指導拠点校に単位制を導入**します。
- 生徒の多様な進路希望に応じた授業が展開できるよう、**進学指導拠点校以外**においても、**単位制の導入を検討**します。
- 生徒の興味や関心に応じた多様な選択科目を設定し、履修ガイダンスや履修コーディネート体制※の充実、大学をはじめとした学校外での学修の単位認定制度の活用など、単位制のメリットが十分生かされるよう教育課程を工夫し、生徒の学習意欲を高めます。

(6) 全日制高等学校における各学科の充実

[基本計画との関連]

基本方針3 (13) 社会の変化に対応した学科の適切な配置

(14) きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備

(15) 学校の特色化と情報発信

[取組内容]

- 全日制高等学校においては、「**普通科・普通系専門学科及び総合学科**」と「**職業系専門学科**」の募集定員を、全県でおおむね**2：1**の比率とし、各地区の実状や生徒の志願動向を考慮しながら、地区ごとに各学科を適正に配置するとともに、各学科の充実に取り組みます。
 - ① **普通科・普通系専門学科**
 - ・ 生徒の進路希望に応じて、大学への進学指導を重点的に行う学校、進学や就職など多様な進路にきめ細かく対応できる学校や、社会人として必要な基礎基本の定着に力を入れる学校など、**普通科等設置校の役割**を明確にし、生徒が自らの興味・関心、進路希望に応じて選択できるよう、**各学校の更なる特色化**を図ります。

※ 履修ガイダンスや履修コーディネート体制

単位制の高等学校において、生徒が自分の興味・関心や進路希望に応じて、数多くの科目の中から最適な科目を選択できるようにするための指導の体制。

- ・ 大学進学希望者の多い学校においては、高大接続改革に対応した「主体的で質の高い深い学び」の実現に取り組み、生徒の思考力、判断力、表現力を高めるとともに、生徒の知的欲求の喚起を目指し、探究的な授業を展開します。
- ・ 地域を支える人材の育成とともに、高校生による地域づくりの観点から、普通科等設置校において地域のニーズに応えることができるよう、**地域と連携した取組を推進**します。
- ・ 普通科の中でも就職希望者の多い高校においては、普通教科に加え商業科等の専門科目における学びの充実を図るとともに、キャリア教育の充実に向けて、**地域の企業や関係機関等との連携**の強化を図ります。
- ・ 基礎基本の定着が必要な生徒に対しては、一人一人が学びの成果を実感できるように**個に応じたきめ細かな指導**に努めます。
- ・ 現在設置している**普通系専門学科**については、普通科及び総合学科の設置系列との関係、志願動向や社会のニーズ等を踏まえ、**その在り方について引き続き検討**します。
- ・ 医師や看護師をはじめとした医療従事者や教員などを志す生徒の夢を実現し、将来本県で活躍できる人材を育成するため、**職業観や基礎的な素養を養うためのコース制の導入等、普通科及び普通系専門学科の新たな在り方**を検討します。

② 総合学科

- ・ 大学進学等の進路希望に合わせた選択科目や職業教育に関する選択科目、国際文化・芸術・スポーツなど生徒の興味・関心や能力・適性等に合わせた選択科目をさらに充実させるなど、**それぞれの高等学校が取り組んできた教育内容の一層の特色化**を図ります。
- ・ 総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を中心に、**地域や産業界等との積極的な連携**を図りながら、**課題探究的な学びを充実**させます。
- ・ 生徒が自己の個性を発見し、将来の生き方や進路について考察できるよう、**個に応じたキャリア教育を推進**します。
- ・ 多様な選択科目により生徒の幅広い学びのニーズに応える総合学科のメリットが十分に生かされる学校規模の確保が困難な場合には、統合等の再編整備を検討します。
- ・ **今後の社会の変化に対応した新たな科目群（系列）の在り方**を検討します。特に、再編整備を行う総合学科については、防災教育系列や自然環境系列など、これまでの学校の取組や地域の特色を生かした新たな科目群（系列）の導入について検討します。

③ 職業系専門学科

- ・ 各分野における最新の知識・技術や産業界の新しい動向に対応して、**学科間連携による実践的な学習プログラム**などの取組を進め、**教育内容の魅力化**を図ります。
- ・ 学科改編による教育内容の魅力化について、中学生や保護者に対してさらに**効果的な情報発信**を行います。

ア 農業に関する学科

- ・ 農業に関する専門的で実践的な知識や技能を習得させるとともに、6次産業化やGAP※、福島イノベーション・コースト構想が推進される中で、ICTやIoT※などの先端技術を活用した新しい農業の在り方への対応を図りながら、地域や社会の発展を担う人材を育成します。
- ・ 農業及びその周辺分野の産業や大学、研究機関との連携を通して、農業に関する技術・技能の専門性を高め、農業及び農業関連産業で活躍する人材を育成します。
- ・ 各地域の産業構造や生徒の志願動向を踏まえつつ、従来の学科の専門性を高めるとともに、多様化している進路希望に対応するため、学科の改編を推進するなど、農業教育の充実を図ります。

イ 工業に関する学科

- ・ 工業に関する専門的で実践的な知識や技能を習得させるとともに、地域生活の安定や経済社会活動の基盤であるインフラを支える産業や、福島イノベーション・コースト構想が推進される中でのロボット関連産業やエネルギー関連産業など新しい工業分野への対応を図りながら地域産業や社会の発展を担う人材を育成します。
- ・ 企業の即戦力としての専門的な知識や技能を養成する実践的な指導はもちろん、上級学校等への進学指導など多様な進路希望に対応できるよう、個に応じた指導を充実させます。
- ・ AI（人工知能）やIoTなどの専門的な知識・技能の高度化に対応するために、産学官との連携を図るとともに、時代に対応した学科の改編を推進するなど、工業教育の充実を図ります。

ウ 商業に関する学科

- ・ 商業に関する専門的で実践的な知識・技術を習得させるとともに、ICT活用能力や地域ビジネスを創出する力の伸長により、技術の加速度的な進化に伴う産業構造の変化に対応しうる即戦力として、地域産業を支える人材を育成します。
- ・ 就職に直結する実践的な指導や上級学校等への進学指導など、多様な進路希望に対応するため、個に応じた指導を充実させ、高い専門性を有した人材の育成を推進します。

※ GAP

Good Agricultural Practice（農業生産工程管理）の略で、食品の安全、環境保全、労働安全等を目指す取組のこと。GAPには認証制度が複数あり、GLOBAL G.A.P.（欧州の大手小売りが主導し策定した国際的に広く通用する第三者認証GAP）、JGAP/ASIAGAP（日本の農業者等が参画し作られた第三者認証GAP）などがある。本県では農林水産省ガイドラインに準拠したGAPにより県が認証するふくしま県GAP（FGAP）を創設し、県産農林水産物の安全確保に努めている。

※ IoT

Internet of Things（モノのインターネット）の略で、パソコンやスマートフォン、タブレットといった従来型のICT端末だけでなく、様々な「モノ」がセンサーと無線通信を介してインターネットの一部を構成すること。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。

- ・ 経済社会の変化に対応できる力の育成を目指した学科の改編や学習内容の再編など、商業教育の充実を図ります。

エ 水産に関する学科

- ・ 小名浜地域の特色を生かし、地域企業等と連携しながら、水産に関する技術・技能の専門性を高めるとともに、水産業における6次産業化に対応した商品開発や加工流通などの実践的な学びをとおして、地域で活躍する人材の育成を目指します。
- ・ 専攻科においては、本科の統合及び学科改編に併せて、学科の在り方や教育課程について検討し、専門性の高い学びが継続できるよう対応します。

オ 家庭に関する学科

- ・ 衣食住、保育、家庭看護や介護等の生活産業に関する科目を総合的に学ぶとともに、地域での実践的な体験活動を通して専門的な知識と技術を身につけ、生活の質の向上を図り、社会の発展に貢献する人材を育成します。

カ その他の学科

- ・ 情報に関する学科については、教科「情報」の科目履修が必修化されていることから、職業系専門学科としての情報科の配置は行わず、総合学科の系列や工業科、商業科の教育課程の中で学習できるように対応します。
- ・ 福祉に関する学科については、超高齢社会の到来により、福祉関係の業務に従事する人材の育成が急務となっていることから、これまで同様、総合学科の福祉系列や普通科等のコースにおいて生徒の興味・関心を喚起するような学びを可能にするとともに、福祉従事者を育成するための学科等の設置について検討します。

(7) 新しい形態の定時制・通信制高等学校の推進

[基本計画との関連]

基本方針2 (6)多様な学習機会の充実

[取組内容]

- 不登校等により全日制課程の教育に適応しにくい生徒、様々な事情により基礎的な学力が十分に定着しなかった生徒、自分のペースで学習したい生徒など、多様な生徒の学習ニーズや進路希望に対応するため、新しい形態の定時制及び通信制高等学校の在り方を検討し、学びの充実を図ります。

① 定時制高等学校

- ・ 働きながら学ぶ生徒の学習機会確保のために設置されてきた従来の夜間定時制課程において、定員を満たしていない学校が多い一方で、多様な入学動機や学習歴を持つ入学者等が増えていることから、生徒に寄り添った丁寧な学習指導や相談体制を充実させるとともに、集団活動の中で社会性を育成し、進路意識を高めるキャリア教育を推進します。
- ・ 多部制を取り入れている郡山萌世高等学校やいわき翠の杜高等学校の志願倍率が高くなっている現状を踏まえ、夕間部の導入等、学びやすい環境整備に努めます。

② 通信制高等学校

- ・ 県立高等学校で唯一の通信制高等学校である郡山萌世高等学校においては、各地区に多くの生徒が在籍し、定時制高等学校と同様に多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が多いことから、計画的な添削指導及びスクーリング（面接指導）におけるわかりやすい授業の展開や丁寧な指導により、生徒の学ぶ意欲を引き出し、進路意識を高めるキャリア教育を推進します。
- ・ 今後の生徒数減少の見込みや志願動向等を考慮し、適切な入学定員や通信制協力校等※との連携の在り方について検討します。

(8) 魅力ある中高一貫教育に向けて

[基本計画との関連]

基本方針 2 (7) 中高一貫教育の推進

[取組内容]

- 2003年（平成15年）に策定した中高一貫教育実施計画※により推進してきた本県の中高一貫教育の成果を踏まえ、2019年度中を目途に、中高一貫教育後期実施計画を策定し、併設型、連携型それぞれに魅力的・効果的な中高一貫教育を推進します。

① 併設型中高一貫教育

- ・ 会津学鳳中学校・高等学校においては、6年間の系統的な指導により自己実現に向けて高い目標を設定し、主体的に学習に取り組む姿勢を持った生徒を養成する取組をさらに充実させます。
- ・ ふたば未来学園高等学校においても、2019年度に開設するふたば未来学園中学校における教育活動の魅力化を図ります。
- ・ 会津学鳳中学校・高等学校の進学面での成果や、ふたば未来学園中学校・高等学校における取組を踏まえ、地域バランスを考慮しながら、新たに進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応できる新たな併設型中高一貫教育校を中通りに開設することを検討します。

② 連携型中高一貫教育

- ・ 保護者や生徒、地域のニーズに対応したより良い中高一貫教育の在り方について連携先中学校とともに検討します。
- ・ ふたば未来学園高等学校においては、双葉郡全体の教育の復興の観点から、連携型中高一貫教育も引き続き推進していきます。

(9) 学校施設の計画的な整備

- 時代の変化や生徒の学びのニーズに対応した学校施設の整備を進めるとともに、安全な教育活動が行われるよう、学校施設の老朽化に伴う大規模改修等を計画的かつ適切に行います。

※ 通信制協力校等

通信制高等学校が各地域で行う、スクーリングや定期試験等において、教室や施設の提供等の協力を行う高等学校や教育機関等のこと。

※ 中高一貫教育実施計画

本県では、2003年（平成15年）に中高一貫教育実施計画を策定し、2010年度（平成22年度）までを前期として、計画的に中高一貫教育を進めてきたが、前期実施計画期間後は、震災等からの復興を目指して開校したふたば未来学園高等学校における併設中学校の開設準備や、それぞれの連携型中高一貫教育校における教育活動を推進してきた。

Ⅲ章 各高等学校の改革の方向性

1 本県の中学校卒業見込者数の推移

(1) 今後の中学校卒業見込者数と学級数の推移

本県の今後の中学校卒業生及び卒業見込者数については、県立高等学校改革基本計画策定前の2017年（平成29年）3月の中学校卒業生数18,482人に比べて、2028年3月の卒業見込者数13,144人と約5,300人減少する見込みです（p.1 図1参照）。

このため、2017年度（平成29年度）入試における公立比（地区内の全高等学校に進学した生徒数のうち、県立全日制課程高等学校に進学した生徒数の実績値の割合）を勘案すると、2028年度までに、県立高等学校は、県全体で104学級程度の削減が必要となります。すでに2018年度に県全体で学級数を15学級削減しており、さらに89学級程度の削減が必要となります。

なお、前期実施計画では、2018年（平成30年）3月から2028年3月までの中学校卒業見込者数の推移（17,619人→13,144人、約4,500人の減少）をもとに、改革の方向性を示すこととします。

(2) 前期実施計画期間中の中学校卒業見込者数と学級数の推移

2018年3月から前期実施計画の最終年度である2023年3月までの中学校卒業見込者数は、県全体で約2,100人の減少が見込まれます。公立比や地域、学校の状況等を勘案すると、県立高等学校の学級数は、県全体で42学級程度の削減が必要となります。

Ⅱ章2で示した本計画期間中の高等学校の再編整備はもちろんのこと、統合対象外の高等学校においても、中・長期的に学級数の見通しを立てて高等学校の在り方を検討していく必要があります。

2 全日制課程の改革の方向性

各地区の中学校卒業見込者数及び減少見込数は以下のとおりです。広域にわたって人口が分散している本県においては、各地区の実状に応じて今後の高等学校の再編整備や学校規模を検討していく必要があります（表1）。

なお、以下に算定した学級数の減少は、あくまで現段階で想定される見込みであり、様々な要因によって変動する可能性があります。

表 1 2018 年 3 月以降の中学校卒業（見込）者数と学級の減少見込数（各地区・全県）

地 区 (学校数 *1)	2018 (平成 30) 年 3 月卒業生数 *2	2023 年 3 月 卒業見込者数	前期計画 中の減少数	学級の減少 数の目安 *3	2028 年 3 月 卒業見込者数	後期計画 中の減少数	10 年間の学級の 減少数の目安
県北(16 校)	4,498	3,778	720	12	3,168	610	24
県中(18 校)	5,020	4,545	475	9	3,935	610	18
県南(7 校)	1,426	1,251	175	3	1,079	172	8
会津(18 校)	2,537	2,185	352	10	1,852	333	15
いわき(15 校)	3,202	2,929	273	6	2,492	437	16
相双(7 校)	936	823	113	2	618	205	8
全県 (81 校)	17,619	15,511	2,108	42	13,144	2,367	89

出典は、p.1 ページの図 1 と同じ。

*1 各地区内の学校数は、2018 年度に生徒募集を行った分校を含む県立の全日制高等学校の数。

*2 2018 (平成 30) 年 3 月の卒業生数は、2017 年度学校基本調査の中学 3 年生の在籍者数。

*3 前期計画期間中の学級の減少数の目安は、各地区の 2017 年度 (平成 29 年度) 入試の公立比を考慮した県立高等学校への進学見込者数から算定。

そこで、以下の①～④の基本的な考えのもと、各校の前期実施計画期間中の改革の方向性を地区ごとに示すこととしました。

- ① 全日制高等学校については、望ましい学校規模（1 学年 4～6 学級）を考慮しながら、学校の再編、各校の学級数の期間内の増減を計画的に進める。
- ② 前期実施計画で再編整備や 1 学級本校化を行わない全日制高等学校についても、各地区の中学校卒業見込者数の推移や生徒の志願動向等を注視し、後期実施計画において、再編整備を検討する。
- ③ 地区内で生徒の多様な進路希望に対応できるよう、全日制高等学校を「進学指導拠点校」「進学指導重点校」「キャリア指導推進校」「地域協働推進校」「職業教育推進校」のいずれかに位置づけるとともに、定時制・通信制高等学校も含めて、各校の特色や計画期間中の方向性を明示する。
- ④ 生徒の希望する学びの内容に応じて、「普通科・普通系専門学科」「総合学科」「職業系専門学科」を地区ごとにバランスよく配置する。

(1) 県北地区

中学校卒業（見込）者：2018年3月 4,498人 → 2023年3月 3,778人
 前期実施計画期間内学級数の増減の目安 12学級減

2018年（現高1） 2023年（現小5） 2028年（現5歳）
 卒業（見込）者数 4,498人 → 3,778人 → (3,168)人
 公立募集学級 79学級 → 67学級 → (55)学級

各校の改革の方向性（県北地区）

* 職業系専門学科の学科名は大学科を記載。表内の数字は学級数を示す。

太字の学校名は、前期実施計画で再編整備や1学級本校化を行わない1学年3学級以下の学校。

学校名	学科	前期計画			各校の方向性
		現在 2018 年度	2023 年度	期間内 増減	
福島	普通	8	7	△ 1	進学指導拠点校 ○進学指導のリーダー校として、単位制の特徴を生かした、より高度な学びの追究や難関大学等に対応した進路指導による、未来を牽引する人材の育成。 ○梅章のおしえ「清らかであれ、勉強せよ、世のためたれ」のもと、SSH事業やこれまでの成果を継承した、県内の学習指導、進学指導をリードする取組の推進。 ○全校生が課題研究に取り組むなど、探究的な学びの実践による、主体的に考え、協働的に行動できる人材の育成。
橘	普通	7	6	△ 1	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○生徒の自主的な進路選択を促す「自己変革プラン」を柱とした進路指導と洗練された文化の創造を目標とした活動による、高い志と自ら学び考える力の育成。また、授業第一主義と文武両道を目標に掲げ、質の高い授業と徹底した小論文指導を核とした、学力向上と進路実現を図る取組の推進。
福島商業	商業	6	6	0	職業教育推進校（商業科） ○商業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動による、生徒の知識・技能の向上と多様な進路希望の実現など、地域産業を支える核となる人材の育成。 ○商業の学び、ビジネススキルの習得を基本に、資格取得や文武両道等の推進による、豊かな人間性を有し、産業社会の変化に対応できる将来の職業人の育成。 ○地域社会及び大学等と連携した教育活動の展開や地域ビジネス創出活動等の実践的な取組による、自ら課題を発見して創造的に解決する力の育成。
福島明成	農業	6	5	△ 1	職業教育推進校（農業科） ○農業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動による、生徒の知識・技能の向上と多様な進路希望の実現など、地域産業を支える核となる人材の育成。 ○大学や関係機関等との連携による高度な知見に触れる教育を通じた、持続可能な農業の展開や地域社会の活性化に寄与できる人材の育成。 ○農業のグローバル化や法人化、6次産業化に関する知識・技術の習得を図るとともに、経営感覚を養い、農業の技術革新に対応できる人材の育成。
福島工業	工業	7	6	△ 1	職業教育推進校（工業科） ○工業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動の推進と、職業人としての倫理観を持って地域産業界の発展に貢献できる人材の育成。 ○産業界の動向を注視し、伝統技術を踏まえた上での、先進技術に関する学びの導入及び地域産業界等との連携を図り、時代の要請に応じた質の高い工業教育の実践による、「信頼され続ける工業高校」を目指す取組の展開。 ○事故の未然防止を図る5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動の推進。

福島西	普通	5	4	△ 1	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○アクティブ・ラーニングや探究的な学習活動の展開及び大学や地域社会、異校種間の連携などを通じた、地域から信頼される開かれた学校づくりの推進。 ○デザイン科学科における、国内有数の美術系学科としての特色ある教育活動による、難関芸術系大学への進学を含めた、国内外で活躍できる人材の育成。
	デザイン科	1	1	0	
福島北	総合	4	4	0	キャリア指導推進校 ○総合学科の特色を生かし、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群(系列)やキャリア教育の充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○必修科目による基礎学力の定着とともに、興味・関心、適性、進路希望に応じた幅広い選択科目の展開による、生徒の多様な進路希望の実現。 ○課題研究等の主体的な探究活動を通じた、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等の育成による、地域を牽引する人間力の育成。
福島東	普通	7	6	△ 1	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○「創造・協調・躍進」を校訓とし、生徒の個性・能力に応じた教育の徹底を基礎とした「文武両道」の実践による、大学進学等に対応する高い学力の育成及び変化の激しい時代をたくましく生きる力の育成。 ○探究型・対話型の魅力ある授業による生徒の主体的で深い学びの追究。
福島南	文理	2	2	△ 1	キャリア指導推進校 ○各科の特色を生かし、国内外と連携した教育活動の充実による生徒の学びの質の向上と、生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育の推進。また、商業に関する専門的な知識・技能の習得と資格取得を目指すなど、普通教育と商業教育の推進による地域を支える人材の育成。 ○文理科における多様な特色ある学校設定科目やサイエンスセミナー等の実践的な授業の展開による、大学進学を目指す探究的な学びの推進。国際文化科におけるALTを活用した授業やイギリスの姉妹校交流等などの、英語力を高める活動の展開。情報会計科における高難度の資格検定の取得を通じた学びによる、進学から公務員、民間企業への就職までの幅広い進路希望の実現。
	国際文化	1	1		
	商業	2	1		
川俣	普通	1	1	0	地域協働推進校、1学級本校化(2020年度)、コミュニティ・スクール ○地域と協働した学校づくりの推進による教育活動の充実と、生徒の進路希望に対応したキャリア教育の実践による、地域創生の核となる人材の育成。 ○地域やその課題について学び、解決策を提案する「地域探究」の取組による、コミュニケーション能力の向上と適切な職業観・勤労観の育成。 ○ふくしまイノベーション人材育成推進校として、地域と連携した教育課程の研究やアクティブ・ラーニングの実践を通じた授業改善による、充実した教育活動の展開。
	工業	1	0	△ 1	
梁川・保原 統合校	普通		6	6	キャリア指導推進校 2023年度統合予定 統合校の方向性は、25ページに記載
梁川	普通	2	0	△ 2	2023年度、統合により募集停止
保原	普通	4	0	△ 4	2023年度、統合により募集停止
	商業	1	0	△ 1	
安達	普通	5	4	△ 1	キャリア指導推進校 ○生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じた、生徒の学びの充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○県内唯一のユネスコスクールとして、環境や食の問題などをテーマとした課題解決型学習や国際理解教育による、ESD(持続可能な開発のための教育)活動の推進及び生徒の主体的・対話的で深い学びの展開。 ○生徒一人一人への徹底した個別指導による、生徒の進路希望の実現。

二本松工業 ・安達東 統合校	工業		3	3	職業教育推進校（工業科、家庭科） 2023年度統合予定 統合校の方向性は、25ページに記載
	家庭		1	1	
二本松工業	工業	3	0	△ 3	2023年度、統合により募集停止
安達東	総合	2	0	△ 2	2023年度、統合により募集停止
本宮	普通	2	2	0	キャリア指導推進校 ○生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じた、生徒の学びの充実。また、商業に関する専門的な知識・技能の習得と資格取得を目指すなど、普通教育と商業教育の推進による地域を支える人材の育成。 ○生徒が自らの適性を発見し能力を開発する取組を通じた、人生を切り拓き社会の中でよりよく生きていく力の育成。 ○社会における自らの役割を見いだすことを目指した、地域や社会と関わる探究活動による、よりよい社会を創るために主体的に行動できる人材の育成。
	商業	2	1	△ 1	
学級数計		79	67	△ 12	

県北地区の再編整備の方向性

① 梁川・保原統合校

開校年度：2023年度予定

使用校舎：保原高等学校の校舎

学科構成：普通科6学級

統合校における教育活動の方向性：

- 生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等により、生徒の学びを充実させ、地域を支える核となる人材を育成するキャリア指導推進校に位置づけます。
- 梁川と保原の取組を継承し、生徒一人一人へのきめ細かな学習指導と、ICT機器を積極的に活用した探究的な学びを推進するとともに、進学から就職までの幅広い進路希望に応じた進路指導により、生徒の進路実現を図ります。
- 地元企業や伊達市との連携により、地域に根ざした人材を育成します。

検討する統合校の特色化：

商業科における取組を発展させた、普通科における地域活性化に向けた課題探究学習。進路希望に応じたコース制の導入。ICT機器の活用によるアクティブ・ラーニング。

② 二本松工業・安達東統合校

開校年度：2023年度予定

使用校舎：二本松工業高等学校の校舎

学科構成：工業科3学級・家庭科1学級

統合校における教育活動の方向性：

- 地域との連携等による工業教育の充実に加え、工業科と家庭科の連携による専門的な学びとキャリア教育の充実により、地域産業を支える人材を育成する職業教育推進校に位置づけます。
- 安達東の家庭や福祉の学びを継承した家庭科を創設し、地域や関係団体等との連携による体験的な学びを推進します。

- 学科間連携により、ユニバーサルデザインを取り入れた「ものづくり」や、新たな商品開発などの活動を展開し、教育活動の充実を図ります。

検討する統合校の特色化：

工業科と家庭科のクロストレーニング※。地域の伝統産業や農産物を生かした家庭科の学び。地域企業や専門学校などとの連携による体験的な学び。

※ クロストレーニング
p. 14 参照。

(2) 県中地区

中学校卒業（見込）者：2018年3月 5,020人 → 2023年3月 4,545人
 前期実施計画期間内学級数の増減の目安 9学級減

2018年(現高1) 2023年(現小5) 2028年(現5歳)
 卒業（見込）者数 5,020人 → 4,545人 → (3,935)人
 公立募集学級 90学級 → 81学級 → (72)学級

各校の改革の方向性（県中地区）

* 職業系専門学科の学科名は大学科を記載。表内の数字は学級数を示す。

太字の学校名は、前期実施計画で再編整備や1学級本校化を行わない1学年3学級以下の学校。

学校名	学科	現在	前期計画		各校の方向性
		2018年度	2023年度	期間内増減	
安積	普通	8	7	△ 1	進学指導拠点校 ○進学指導のリーダー校として、単位制の特徴を生かした、より高度な学びの追究や難関大学等に対応した進路指導による、未来を牽引する人材の育成。 ○「開拓者精神」のもと、知・徳・体を錬磨し、高い志をもって世界で活躍できるリーダーの育成。 ○授業第一主義のもと、県内の学習指導及び進学指導をリードする、探究的な活動を重視した質の高い授業の実践や、確かな学力と高い知性を育む取組の推進。
安積御館	普通	1	0	△ 1	2020年度募集停止
安積黎明	普通	7	7	0	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○探究的な学びと発信力の向上を重視した教育活動による、学力向上と進路希望の実現。また、芸術・文化活動においても県をリードする取組の実践。 ○地域や社会に開かれたカリキュラムの充実を図り、多様な領域で活躍する感性豊かな人材の育成を目指した、探究的に学ぶキャリア教育の推進。
郡山東	普通	7	6	△ 1	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○個に応じた、きめ細かな指導による進路希望の実現。 ○探究活動を通じた、学びたい分野から大学進学につなげる進路指導の実践。 ○授業のICT化の推進と、英語4技能の向上を図る取組の推進。 ○グローバルな視野で課題を捉え、未来を見据えて社会貢献できる人材の育成。
郡山商業	商業	7	6	△ 1	職業教育推進校（商業科） ○商業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動による、生徒の知識・技能の向上と多様な進路希望の実現など、地域産業を支える核となる人材の育成。 ○ビジネスにおけるマネジメント能力の向上に必要な、創造力・発想力の豊かな人づくりの推進。 ○実学を重視した体験的・実践的な学習を通じた専門性の深化と、個に応じた丁寧な指導による、資格取得の向上を目指した取組の推進。
郡山北工業	工業	7	7	0	職業教育推進校（工業科） ○工業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動の推進と、職業人としての倫理観を持って地域産業界の発展に貢献できる人材の育成。 ○地域産業や時代のニーズに柔軟に対応した工業人の育成及び地域産業の活性化に貢献できる、新しい産業創出に関わる人材の育成。 ○ロボット製作などの、ものづくり教育のさらなる充実と、全国トップレベルの資格取得率をより向上させる教育活動の推進。

郡山	普通	6	6	△ 1	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○文武両道の実践・追求による、大学進学を中心とした生徒の進路希望の実現。 ○探究的な教育活動の推進や丁寧な指導による、難関大学を志望する生徒に対する進学指導体制の充実。 ○異文化・国際理解に関する学習を通じた、総合的な英語力育成の推進。	
	英語	1				
あさか開成	国際科学	5	4	△ 1	キャリア指導推進校 ○生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じた、生徒の学びの充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○探究活動や海外研修等の国際交流に係る取組と、英語運用能力の育成による、国際的な視野に立ち、物事を考え主体的に行動できる人材の育成。 ○物事を多面的に考察し、協働作業をしながら問題解決に向かう、クリティカル・シンキングを取り入れた授業づくりの推進。	
湖南	普通	1	1	0	地域協働推進校、コミュニティ・スクール ○地域と協働した学校づくりの推進による教育活動の充実と、生徒の進路希望に対応したキャリア教育の実践による、地域創生の核となる人材の育成。 ○きめ細かな学習指導による、社会人として必要な基礎学力の定着及び地域の学校として地元の小中学校や関係機関との連携の推進。 ○湖岸清掃や除雪ボランティア、湖南の文化や自然を学ぶ「ぐるっと湖南」等の、地域性を生かした教育活動の展開。	
須賀川・長沼統合校	普通		6	6	キャリア指導推進校 2022年度統合予定 統合校の方向性は、29ページに記載	
	須賀川	普通	4	0	△ 4	2022年度、統合により募集停止
		商業	1	0	△ 1	
長沼	普通	2	0	△ 2	2022年度、統合により募集停止	
須賀川桐陽	普通	5	6	0	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○大学等との連携のもと、探究的な学びを発展させた取組による、生徒の学習に対する主体的な態度や発信力、行動力を鍛える教育活動の推進。 ○基礎学力向上に向けた取組と進路ガイダンスの充実及び進学指導における小論文や面接などの丁寧な個別指導の実施。	
	数理科学	1				
清陵情報	工業	4	3	△ 1	職業教育推進校（工業科・商業科） ○地域企業等との連携による工業・商業教育の充実に加え、専門的な知識・技能の習得と進路希望に応じたキャリア教育による、地域産業を支える人材の育成。 ○工業系・商業系の学科をもつ「情報」の専門高校として、専門性、学力、人間性を向上させることによる、進学や就職にも対応できる教育活動の推進。 ○情報科目を中心とした教育課程とICT機器を活用した教育の推進による、情報活用能力の向上を目指した取組の展開。	
	商業	3	3	0		
岩瀬農業	農業	6	6	0	職業教育推進校（農業科） ○農業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動による、生徒の知識・技能の向上と多様な進路希望の実現など、地域産業を支える核となる人材の育成。 ○作物や家畜という生き物を通じた豊かな人間性の育成とともに、地域と連携した農業の6次産業化に対応した学習、農業の学びを活用した福祉に関する学習、さらに国際社会やグローバル化に対応した先端技術の学習による、時代の進展に対応した魅力ある、農業高校へ向けた取組の推進。	
石川	普通	2	2	0	キャリア指導推進校 ○生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じた、生徒の学びの充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○確かな学力の習得や適切な職業観・勤労観の形成など、「社会を生き抜く力」となる、生徒の社会的・職業的自立に必要な能力や態度の育成。 ○石川町や商工会と連携したデュアルシステムや地域課題探究活動による地域コミュニティ再生への取組など、地域と連携した教育活動の展開。	

田村	普通	5	4	△ 1	キャリア指導推進校 ○生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じた、生徒の学びの充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○県内唯一の体育科の設置校として、競技力の向上とスポーツを通して人間力を身に付けることによる、国内はもとより世界で活躍できる人材の育成。 ○普通科において特進クラスを設けるなど、生徒の多様な進路目標実現を目指した進路指導の充実。
	体育	1	1	0	
船引	普通	3	3	0	キャリア指導推進校 ○生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じた、生徒の学びの充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○市・企業・学校が一体となって人材育成を図るデュアル実習、地域課題の探究及びドローン活用事例の研究を通じた、地域に貢献する意識の醸成。 ○個に応じた指導や資格取得を重視した指導による進路希望の実現。また、多様な価値観の受容と協働を通じた、よりよい社会を目指す姿勢の育成。
小野	総合	3	3	0	キャリア指導推進校 ○総合学科の特色を生かし、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群(系列)及びキャリア教育の充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○「地域社会の支援の中で、地域と共に生きる」という理念のもと、各系列の特色を生かした課題研究の取組や資格取得に向けた取組の推進。 ○他校種との共同学習、沖縄県の高校との交流事業や地域資源を生かした6次化商品開発など、社会に積極的に関わる学習活動の展開。
学級数計		90	81	△ 9	

県中地区の再編整備の方向性

① 須賀川・長沼統合校

開校年度：2022年度予定

使用校舎：須賀川高等学校の校舎

学科構成：普通科6学級

統合校における教育活動の方向性：

- 生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等により、生徒の学びを充実させ、地域を支える核となる人材を育成するキャリア指導推進校に位置づけます。
- 須賀川の取組を継承し、大学進学や就職など多様な進路希望に対応できるコース制を導入します。
- 長沼の取組を継承し、丁寧な学習指導により基礎学力の着実な定着を図ります。
- 地域企業や専門学校との連携等により、生徒の進路意識を醸成します。

検討する統合校の特色化：

須賀川市の地域資源とCG映像などの新しい文化を生かした体験的な学び。進路希望に応じたコース制の導入。専門学校や地域企業との連携によるキャリア教育。

② 安積高等学校御館校の募集停止

募集停止年度：2020年度予定

※ 入学者の出身中学校の状況や地元及び周辺の中学校の卒業見込者数の減少を踏まえ、募集停止とします。

(3) 県南地区

中学校卒業（見込）者：2018年3月 1,426人 → 2023年3月 1,251人
 前期実施計画期間内学級数の増減の目安 3学級減

2018年(現高1) 2023年(現小5) 2028年(現5歳)
 卒業（見込）者数 1,426人 → 1,251人 → (1,079)人
 公立募集学級 29学級 → 26学級 → (21)学級

各校の改革の方向性（県南地区）

* 職業系専門学科の学科名は大学科を記載。表内の数字は学級数を示す。

学校名	学科	現在	前期計画		各校の方向性
		2018年度	2023年度	期間内増減	
光南	総合	5	5	0	キャリア指導推進校 ○総合学科の特色を生かし、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群(系列)及びキャリア教育の充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○生徒の進路希望と興味関心に応じた、多様な選択科目からの授業選択が可能となる、特色ある各系列の学びを深めるカリキュラムの編成。 ○進路希望実現のためのきめ細かな進路指導や資格取得に向けた指導の推進。 ○矢吹町との連携協定による、地域に必要とされる学校づくりの推進。
白河	普通	5	5	0	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○きめ細かな学習指導や進路指導による生徒の進学希望の実現と、文武両道の奨励を通じた、「地域とともにある愛される学校」を目指す取組の推進。 ○難関大学等への進学に対応した学習指導と、課題研究などの探究的な学習の展開による、生徒が主体的に学ぶ姿勢を重視した教育活動の推進。
	理数	1	1	0	
白河旭	普通	5	4	△1	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○文武両道を目標に掲げ、進路意識を涵養し進路希望実現につなげる「進路ストーリー」の取組や、丁寧な学習指導による学力向上に向けた取組の展開。 ○探究的な学びや課題解決型の教育活動を通じた、主体的に学び行動する態度と情報発信力の育成による、地域社会の期待に応える学校づくりの推進。
白河実業・ 塙工業 統合校	工業		5	5	職業教育推進校（工業科・商業科） 2023年度統合予定 統合校の方向性は、31ページに記載
	商業		1	1	
白河実業	農業	1	0	△1	2023年度、統合により募集停止
	工業	4	0	△4	
	商業	1	0	△1	
塙工業	工業	2	0	△2	2023年度、統合により募集停止
修明	文理	1	1	0	職業教育推進校（農業科・商業科） 2023年度再編予定 再編の方向性は、31ページに記載
	農業	2	3	1	
	商業	1	1	0	
修明鮫川	普通	1	0	△1	2020年度募集停止
学級数計		29	26	△3	

県南地区の再編整備の方向性

① 白河実業・埴工業・修明の再編

ア 白河実業・埴工業統合校

開校年度：2023 年度予定

使用校舎：白河実業高等学校の校舎

学科構成：工業科 5 学級、商業科 1 学級

統合校における教育活動の方向性：

- 工業・商業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動により生徒の知識・技能を高め、大学進学の実現を図るなど、地域産業を支える核となる人材を育成する職業教育推進校に位置づけます。
- 白河実業と埴工業における工業科の教育活動を継承し、丁寧なキャリア教育、資格取得や各種大会の参加を通じた職業人の育成により、地域に信頼される学校を目指します。
- 工業科と商業科の連携による学科横断的な学びを生かした探究的な学習プログラムや、地域と協働した取組の実践で地域活性化に貢献します。

検討する統合校の特色化：

大学と連携した専門性の高い課題研究。工業分野を総合的に学べる教育課程。県南地区の企業との連携。地域との協働による地域活性化の取組。

イ 白河実業・修明の学科の再編

再編年度：2023 年度予定

使用校舎：修明高等学校の校舎

学科再編の方向性：

- 白河実業の農業科については、修明に集約し、修明を県南地区の農業科の拠点校とします。
- 修明は、東白川郡の唯一の高等学校として、埴工業の取組を継承しつつ、地域と連携した教育活動により、地域を支える核となる人材を育成します。
- 生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じて、普通教育と職業教育の推進により、地域創生を担う人材の育成を図ります。また、職業教育における、農業教育の拠点及び商業教育の実施校として、高い専門性を身に付けるための教育活動を通じた生徒の知識・技術の向上により、地域産業を支える核となる人材の育成を図ります。
- 文理科において、個に応じたきめ細かな指導の推進による、四年制大学への進学など、生徒一人一人の進路希望を実現させます。
- 農業科・商業科において、それぞれの専門性を深化させ、地域と連携した地域課題探究活動により、職業人として必要な資質・能力の育成を図ります。

② 修明高等学校鮫川校の募集停止

募集停止年度：2020 年度予定

※ 入学者の出身中学校の状況や地元及び周辺の中学校の卒業見込者数の減少を踏まえ、募集停止とします。

(4) 会津地区

中学校卒業（見込）者：2018年3月 2,537人 → 2023年3月 2,185人
 前期実施計画期間内学級数の増減の目安 10学級減

2018年(現高1) 2023年(現小5) 2028年(現5歳)
 卒業（見込）者数 2,537人 → 2,185人 → (1,852)人
 公立募集学級 59学級 → 49学級 → (44)学級

各校の改革の方向性（会津地区）

* 職業系専門学科の学科名は大学科を記載。表内の数字は学級数を示す。

学校名	学科	現在	前期計画		各校の方向性
		2018年度	2023年度	期間内増減	
会津	普通	6	6	0	進学指導拠点校 ○進学指導のリーダー校として、単位制の特徴を生かした、より高度な学びの追究や難関大学等に対応した進路指導による、未来を牽引する人材の育成。 ○地域に根ざした諸課題に対して、大学等と連携し、多面的多角的な視点からの様々な探究活動の実践による、論理的思考力やコミュニケーション能力、リーダーシップ等を身に付けた、会津から世界へ発信できるグローバルリーダーの育成。
葵	普通	6	5	△ 1	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○「私の選択には意志がある」をスローガンに、課題探究型学習の「葵ゼミ」やICT機器の効果的運用を含めたアクティブ・ラーニング型授業の一層の推進による、生徒の主体性の育成。また、英語4技能の育成を図る指導法の研究・改善による、生徒の英語力向上及び大学等への進路実現を目指す取組の展開。
会津学鳳	総合	6	5	△ 1	進学指導重点校 ○中高一貫校の利点である6年間の系統的で継続的な指導を生かした、将来、各分野のリーダーとして活躍し、社会の発展に貢献できる優れた人材の育成。 ○総合学科の特長である専門科目を含めた多彩な科目の選択制を生かし、難関大学進学を含めた生徒の多様な進路希望実現に向けた、きめ細かな指導の推進。 ○グローバルな視野や高度な思考力を養うための、国際交流やSSH事業、会津大学等との連携、課題研究等の探究的活動の積極的な展開。
若松商業	商業	4	4	0	職業教育推進校（商業科） ○商業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動による、生徒の知識・技能の向上と多様な進路希望の実現など、地域産業を支える核となる人材の育成。 ○商業教育は「人づくり」であることを重視した、学力向上と文武両道の実践による、人間性・社会性の育成を目指す全人的な教育の推進。 ○生徒を株主とした模擬株式会社「若商デパート」を、地域と連携しながら生徒主体で運営を行うなどの、実践的な商業教育の展開。
会津工業	工業	6	5	△ 1	職業教育推進校（工業科） ○工業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動の推進と、職業人としての倫理観を持って地域産業界の発展に貢献できる人材の育成。 ○地域企業と連携した「共同課題研究」などの事業をはじめとする、優れた技術・技能を学ぶ活動の推進による、科学技術の進展や産業構造の変化等に対応できる能力の向上。また、地域から信頼される工業高校として、地域への貢献意欲が高く、高度な技能を持つ優れた工業人の育成。

喜多方・ 喜多方東 統合校	普通		5	5	進学指導重点校 2021年度統合予定 統合校の方向性は、34ページに記載	
	喜多方	普通	4	0	△ 4	2021年度、統合により募集停止
	喜多方東	普通	2	0	△ 2	2021年度、統合により募集停止
喜多方桐桜	工業		3	3	0	職業教育推進校（工業科・商業科） ○地域企業等との連携による工業・商業教育の充実に加え、専門的な知識・技能の習得と進路希望に応じたキャリア教育による、地域産業を支える人材の育成。 ○工業と商業の学科間連携による学習プログラムを通じた学びを、生徒の進路選択に生かす取組の推進と、資格取得マップを活用した、自ら学ぶ意欲の喚起。 ○地域に信頼される学校として、地域の小中学校及び企業等と連携した授業や商品開発など、地域密着型の取組の推進による、地域貢献意識を持つ職業人の育成。
	商業		2	1	△ 1	
猪苗代	普通		1	1	0	地域協働推進校、1学級本校化（2020年度）、コミュニティ・スクール ○地域と協働した学校づくりの推進による教育活動の充実と、生徒の進路希望に対応したキャリア教育の実践による、地域創生の核となる人材の育成。 ○観光業など地域の教育資源を活用した商業の学びを継続し、地域で活躍できる人材を育成する教育カリキュラムの実施。 ○個に応じた進学指導、専門学校と提携した公務員試験対策、地域行事への積極的な参加など、地域と連携した実践的なキャリア教育の推進。
	商業		1	0	△ 1	
西会津	普通		1	1	0	地域協働推進校、コミュニティ・スクール ○地域と協働した学校づくりの推進による教育活動の充実と、生徒の進路希望に対応したキャリア教育の実践による、地域創生の核となる人間の育成。 ○西会津町の教育資源を活用した、地域活性化の一翼を担う学校づくりの実践と、西高P C～Public Commitment & Plan Check～に掲げる7つの力「自己肯定力」「思考力」「課題解決力」「継続力」「傾聴力」「発信力」「協働力」を育む授業や特別活動、学校行事等の展開。
大沼・坂下 統合校	普通		4	4	4	キャリア指導推進校 2022年度統合予定 統合校の方向性は、34ページに記載
	大沼	普通	3	0	△ 3	2022年度、統合により募集停止
	坂下	普通	2	0	△ 2	2022年度、統合により募集停止
川口	普通		1	1	0	地域協働推進校、コミュニティ・スクール ○地域と協働した学校づくりの推進による教育活動の充実と、生徒の進路希望に対応したキャリア教育の実践による、地域創生の核となる人材の育成。 ○地域から信頼される1学級規模の学校として、地域の教育資源を活用した教育環境の充実による、自らの手で地域づくりを推進する人材の育成。 ○地区外や県外出身の生徒に対し、学校と寮とが協調した指導を行うなど、地域全体での温かい指導による、人間性を高める取組の推進。
耶麻農業・ 会津農林 統合校	農業		4	4	4	職業教育推進校（農業科） 2023年度統合予定 統合校の方向性は、35ページに記載
	耶麻農業	農業	1	0	△ 1	2023年度、統合により募集停止
		家庭	1	0	△ 1	
会津農林	農業		3	0	△ 3	2023年度、統合により募集停止

田島・ 南会津 統合校	総合		3	3	キャリア指導推進校 2023年度統合予定 統合校の方向性は、35ページに記載
田島	普通	2	0	△ 2	2023年度、統合により募集停止
南会津	普通	2	0	△ 2	2023年度、統合により募集停止
只見	普通	2	1	△ 1	地域協働推進校、1学級本校化（2020年度）、コミュニティ・スクール ○地域と協働した学校づくりの推進による教育活動の充実と、生徒の進路希望に対応したキャリア教育の実践による、地域創生の核となる人材の育成。 ○豊かな自然と文化に恵まれた地域の学びを通して、発見した課題を主体的に解決する教育活動の展開による、未来を創造できる、生きる力の育成。 ○県内外からの生徒受け入れによる交流活動を通じた、社会性、人間性の育成及び地域創生の一翼を担う人材の育成を重視する学校づくりの推進。
学級数計		59	49	△10	

会津地区の再編整備の方向性

① 喜多方・喜多方東統合校

開校年度：2021年度予定

使用校舎：喜多方高等学校の校舎

学科構成：普通科5学級

統合校における教育活動の方向性：

- 授業の質の向上と進学指導の充実を図ることで、大学等への進学指導体制を強化し、各分野のリーダーとして活躍し地域の発展に貢献する人材を育成する進学指導重点校に位置づけます。
- 喜多方と喜多方東における教育活動を継承し、生徒一人一人の学習ニーズに応える丁寧な学習指導と進路指導により、多様な進路希望を実現します。
- 地域から信頼される学校として、地元の関係機関との連携のもと、探究的な学びなどを通して、生徒の主体性、協働性、創造性を育みます。

検討する統合校の特色化：

大学進学に向けた丁寧な進路指導。喜多方市の伝統文化や地域産業に触れる探究的な学び。地域の医療福祉機関や自治体との連携。

② 大沼・坂下統合校

開校年度：2022年度予定

使用校舎：大沼高等学校の校舎

学科構成：普通科4学級

統合校における教育活動の方向性：

- 生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等により、生徒の学びを充実させ、地域を支える核となる人材を育成するキャリア指導推進校に位置づけます。
- 大沼と坂下の取組を継承した、少人数・習熟度別授業やICT機器を活用したアクティブ・ラーニング型の授業など、個に応じた丁寧な学習指導を実践します。
- 地域の伝統行事やイベント等への積極的な関わりにより、生徒の社会性を育みながら、学校を核とした地域づくりを推進します。

検討する統合校の特色化：

少人数教育や習熟度別授業による個に応じた学習指導や進路指導。地域の伝統行事等との関わり。観光や福祉分野などの地域課題探究型学習。

③ 耶麻農業・会津農林統合校

開校年度：2023 年度予定

使用校舎：会津農林高等学校の校舎

学科構成：農業科 4 学級

統合校における教育活動の方向性：

- 農業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動により生徒の知識・技能を高め、大学進学の実現を図るなど、地域産業を支える核となる人材を育成する職業教育推進校に位置づけます。
- 耶麻農業と会津農林の取組を継承した、地域貢献を目指す学校づくりを推進します。
- 食料生産に必要な知識・技術を習得するとともに、米や伝統野菜栽培でのグローバルGAP認証取得、林産物の加工や生産及び発酵等の食品加工技術を活かした商品開発・農福連携等の教育活動を柱とした、6次産業化に対応できる人材を育成します。

検討する統合校の特色化：

伝統野菜やそば、発酵・醸造の技術など、会津の豊かな農業資源の継承発展に寄与する学び。大学や関係機関との連携。地域の伝統文化を継承する活動。

④ 田島・南会津統合校

開校年度：2023 年度予定

使用校舎：田島高等学校の校舎

学科構成：総合学科 3 学級

統合校における教育活動の方向性：

- 総合学科の特色を生かし、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群（系列）の設置と探究的な学びの推進及びキャリア教育の充実により、地域を支える核となる人材を育成するキャリア指導推進校に位置づけます。
- インクルーシブ教育システム※の理念の下、南会津町に新設される特別支援学校との連携を図ります。
- 地域資源を生かした体験的な学習と幅広い職業教育を通じて、グローバルな視点を持った地域社会のリーダーや地域産業の核となる人材を育成します。
- 連携型中高一貫教育の充実に加え、南会津地区の小・中学校や特別支援学校との連携により、南会津地区全体の教育力の向上を図ります。

検討する統合校の特色化：

持続可能な地域づくりに向けた探究的な活動（食と農業、地域創生、地域人材を活用した進学指導など）。地域企業における就業体験。地域の良さを国内外に発信する取組。南会津地区におけるインクルーシブ教育システムの実現。

※ インクルーシブ教育システム

2006 年（平成 18 年）に国連で採択された「障害者の権利に関する条約」において提唱されたものであり、共生社会に向けて一人一人に応じた指導や支援（特別支援教育）を行うことに加え、障がいのある者と障がいのない者が可能な限り共に学ぶ仕組みのこと。

(5) いわき地区

中学校卒業（見込）予定者：2018年3月 3,202人 → 2023年3月 2,929人
 前期実施計画期間内学級数の増減の目安 6学級減

2018年(現高1) 2023年(現小5) 2028年(現5歳)
 卒業（見込）者数 3,202人 → 2,929人 → (2,492)人
 公立募集学級 65学級 → 59学級 → (49)学級

各校の改革の方向性（いわき地区）

* 職業系専門学科の学科名は大学科を記載。表内の数字は学級数を示す。

太字の学校名は、前期実施計画で再編整備や1学級本校化を行わない1学年3学級以下の学校。

学校名	学科	現在	前期計画		各校の方向性
		2018年度	2023年度	期間内増減	
磐城	普通	7	7	0	進学指導拠点校 ○進学指導のリーダー校として、単位制の特徴を生かした、より高度な学びの追究や難関大学等に対応した進路指導による、未来を牽引する人材の育成。 ○思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた教育課程の展開や、3年間の計画的な教育活動の積み上げによる、生徒の進路希望の実現。 ○探究的な学びや課題解決型の学習を重視し、主体的で対話的な学びによる深い理解に基づく、社会を生き抜く発想力・行動力を鍛える取組の実践。
磐城桜が丘	普通	7	6	△1	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○アクティブ・ラーニングによる授業やICT機器等を授業に活用した探究的な学びを通じた、主体的に学ぶ姿勢や思考力の育成。 ○正義と礼節を守り、民主的・道徳的な態度や豊かな人間性を備え、高潔な品性と寛容な精神にあふれる生徒の育成。
平工業	工業	7	6	△1	職業教育推進校（工業科） ○工業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動の推進と、職業人としての倫理観を持って地域産業界の発展に貢献できる人材の育成。 ○「福島イノベーション・コースト構想」や「バッテリーバレー構想」におけるロボット・再生可能エネルギー・AI・環境など、先進的な知識・技術を学ぶ活動の推進。 ○国際的な視野を持った、新たな社会の創造を担う人づくりを目指す、地域や海外と連携した教育活動の推進。
平商業	商業	5	5	0	職業教育推進校（商業科） ○商業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動による、生徒の知識・技能の向上と多様な進路希望の実現など、地域産業を支える核となる人材の育成。 ○いわき市の関係機関と連携した商品企画及び商品開発などの学習活動による、地域のビジネスを担う資質・能力の育成。 ○実践的教育内容の充実による、思いやりと気配りを伴ったビジネスマナーの習得や、場面に応じて適切な意思疎通ができるコミュニケーション能力の育成。
いわき総合	総合	5	5	0	キャリア指導推進校 ○総合学科の特色を生かし、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群(系列)及びキャリア教育の充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○地域の四年制大学や短期大学との高大連携による授業の実施など、教育活動の充実による、生徒の学びを深める取組の推進。 ○多様な進路希望に応える、各系列における幅広い選択科目による学びの提供。特に芸術・表現系列における、全国でも高い水準の教育内容の実施。

いわき光洋	文理	5	5	0	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○単位制の長所を生かす習熟度別授業や少人数授業等の取組を通じた、対話的で深い学びの実践と、個に応じたきめ細かな指導による、学習指導の充実。 ○高大連携による科目を含めた多様な選択科目の設置による、進路希望に応じた科目履修を可能とするカリキュラムの展開。
湯本・遠野 統合校	普通		6	6	キャリア指導推進校 2022年度統合予定 統合校の方向性は、38ページに記載
湯本	普通	6	0	△ 6	2022年度、統合により募集停止
遠野	普通	2	0	△ 2	2022年度、統合により募集停止
小名浜・ いわき海星 統合校	普通 商業 水産		1 1 3	1 1 3	職業教育推進校（商業科・水産科） 2021年度統合予定 統合校の方向性は、38ページに記載
小名浜	普通 商業	1 1	0 0	△ 1 △ 1	2021年度、統合により募集停止
いわき 海星	水産	4	0	△ 4	2021年度、統合により募集停止
磐城農業	農業	4	4	0	職業教育推進校（農業科） ○農業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動による、生徒の知識・技能の向上と多様な進路希望の実現など、地域産業を支える核となる人材の育成。 ○GAP認証や「福島イノベーション人材育成実践事業」を通じた教育活動による、農業の新たなニーズに対応できる知識と技術の習得を目指す取組の推進。 ○農畜産物の生産、加工、商品開発及び販売による、一貫した実践的な学びを通じた、地域活性化に貢献できる学校づくりの推進。
勿来	普通	2	2	0	キャリア指導推進校 ○生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じた、生徒の学びの充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○基礎学力の定着と社会性や生活力を身に付けるための学校設定科目の設定による、社会人として必要な資質や能力の養成。 ○いわき支援学校くぼた校との連携による、特別支援教育の知見と手法を生かした、一人一人の能力や適性、ニーズに合わせたきめ細かな指導の推進。
勿来工業	工業	5	4	△ 1	職業教育推進校（工業科） ○地域企業等との連携による工業教育の充実に加え、専門的な知識・技能の習得と進路希望に応じたキャリア教育による、地域産業を支える人材の育成。 ○「福島イノベーション人材育成実践事業」を活用した、地元企業等との連携による実践的な経験を積ませるインターンシップ等の推進。また、高い専門性を身に付けるための工業教育の徹底による生徒の進路希望の実現及び工業を通じた地域との交流による、地域から愛され社会に貢献できる職業人の育成。
好間	普通	2	2	0	キャリア指導推進校 ○生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じた、生徒の学びの充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○地域の教育機関や行政機関、企業などとの連携のもと、地域の課題について学び、解決方法を探究する地域探究活動の推進。 ○基礎学力の定着を図るきめ細かな学習指導及び「鍛える教育」の精神を教育活動の核とした、社会人としての人間性を育む学校づくりの推進。

四倉	普通	2	2	0	キャリア指導推進校 ○生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等を通じた、生徒の学びの充実による、地域を支える核となる人材の育成。 ○地元企業との連携による体験活動を重視した人材育成プロジェクト「デュアル実習」など、地域創生の一翼を担うことのできる学校へ向けた取組の推進。 ○富岡支援学校との連携による、インクルーシブ教育の先端的な取組の研究・実践と、その成果の普及へ向けた取組の推進。
		学級数計	65	59	

いわき地区の再編整備の方向性

① 湯本・遠野統合校

開校年度：2022年度予定

使用校舎：湯本高等学校の校舎

学科構成：普通科6学級

統合校における教育活動の方向性：

- 生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等により、生徒の学びを充実させ、地域を支える核となる人材を育成するキャリア指導推進校に位置づけます。
- 湯本と遠野の取組を継承し、地域の伝統・文化の継承活動を推進するとともに、地域から信頼される学校として、地域と連携した活動を推進します。
- アクティブ・ラーニングやICT機器等を活用した授業の展開に加え、探究的な学習を推進することで、主体的な学びの姿勢と思考力、発信力を育成します。

検討する統合校の特色化：

ICT機器等を活用した探究的な学び。遠野地区や湯本地区の伝統文化の継承。スポーツや文化などの分野に触れる学び。

② 小名浜・いわき海星統合校

開校年度：2021年度予定

使用校舎：小名浜高等学校の校舎（実習はいわき海星高等学校の校舎を使用）

学科構成：普通科1学級・商業科1学級・水産科3学級

統合校における教育活動の方向性：

- 水産教育の拠点及び商業教育の実施校として、高い専門性を身に付けるための教育活動により、生徒の知識・技能を高める職業教育推進校に位置づけます。
また、生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育や地域と連携した教育活動等により生徒の学びを充実させるなど、普通教育と職業教育の推進により、地域産業を支える核となる人材を育成します。
- 学科間連携による水産業での6次産業化やマリンスポーツなど流通や観光の分野における地域ビジネスに関する教育を展開します。
- 国際港小名浜があるという地域の特色に対応した、語学教育を展開し、実践的な学習活動により外国語によるコミュニケーション能力を高めます。

検討する統合校の特色化：

小名浜地区ならではの水産科・商業科・普通科の学科間連携。地域との連携による新たな地域の魅力を創出する取組。

(6) 相双地区

中学校卒業（見込）者：2018年3月 936人 → 2023年3月 823人
 前期実施計画期間内学級数の増減の目安 2学級減

2018年（現高1） 2023年（現小5） 2028年（現5歳）
 卒業（見込）者数 936人 → 823人 → (618)人
 公立募集学級 27学級 → 25学級 → (19)学級

各校の改革の方向性（相双地区）

* 職業系専門学科の学科名は大学科を記載。表内の数字は学級数を示す。

太字の学校名は、前期実施計画で再編整備や1学級本校化を行わない1学年3学級以下の学校。

学校名	学科	現在	前期計画		各校の方向性
		2018年度	2023年度	期間内増減	
ふたば 未来学園	総合	4	4	0	キャリア指導推進校 ○総合学科、中高一貫の特色を生かした、多様な科目群(系列)や探究を軸とした学習の充実による、夢を実現し、地域や世界で未来を創造する力の育成。 ○併設型中高一貫教育の中で深い学力をじっくり育みながら、哲学・演劇などシティズンシップ教育の充実、コミュニケーション能力の育成、グローバルな視点から地域の課題解決に取り組む力の育成を図る教育活動の推進。 ○各競技団体との連携による、世界に通用する真のアスリートの育成。
相馬	普通	3	3	0	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○「福島イノベーション・コースト構想関連事業」の取組を通じた地域のエネルギー問題等の深い理解による、地域の復興と再生に寄与するリーダーの育成。 ○地域の医療、教育、福祉、行政等の各分野をテーマとした課題解決学習や探究的な学びの展開による、多角的な視点で地域を理解する質の高い学びの推進。
	理数	1	1	0	
相馬東・ 新地 統合校	総合		5	5	キャリア指導推進校 2022年度統合予定 統合校の方向性は、40ページに記載
相馬東	総合	4	0	△ 4	2022年度、統合により募集停止
新地	普通	2	0	△ 2	2022年度、統合により募集停止
原町	普通	4	4	0	進学指導重点校 ○質の高い授業の実践と進学指導を充実させた、大学等への進路指導体制の強化による、各分野のリーダーとして活躍し社会の発展に貢献する人材の育成。 ○「福島イノベーション人材育成実践事業」を活用し、企業・大学等訪問を通じた将来貢献したい分野を見出す取組、地域理解と課題解決に取り組む探究学習、英語を用いたプレゼンテーションの実践等による、時代に対応した幅広い能力の育成。また、地域の医療分野等で中心的役割を担う人材の育成。
相馬農業	農業	3	3	0	職業教育推進校（農業科） ○農業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動による、生徒の知識・技能の向上と多様な進路希望の実現など、地域産業を支える核となる人材の育成。 ○「福島イノベーション人材育成実践事業」を活用した、地域の農業を深く知るための実習や先端技術を学ぶ活動を通じた、次世代の農業人の育成。 ○地域との連携のもと、郷土芸能部による地域の伝統芸能を継承する活動や、地域の小中学生と協働した、食産業の魅力を発信する活動の推進。

小高産業技術	工業	4	3	△ 1	職業教育推進校（工業科・商業科） ○工業・商業教育の拠点として、高い専門性を身に付けるための教育活動による、生徒の知識・技能の向上と多様な進路希望の実現など、地域産業を支える核となる人材の育成。 ○「福島イノベーション・コースト構想」を担う専門人材育成に向けた、大学や企業との連携によるロボット工学、再生可能エネルギー、ビジネスに関する教育や工業科・商業科を横断した教育活動の推進。 ○地域の復興や活性化に向けて取り組む学校として、地域社会との連携の強化。
	商業	2	2	0	
双葉	普通	0	—		2017年度より休校 住民の帰還状況や小中学校の再開状況を注視する。
浪江	普通	0	—		
浪江津島	普通	0	—		
富岡	国際・スポーツ	0	—		
双葉翔陽	総合	0	—		
相馬農業飯舘	普通	0	—		
学級数計		27	25	△ 2	サテライト校を2018年度より募集停止。住民の帰還状況や小中学校の再開状況を注視する。

相双地区の再編整備の方向性

① 相馬東・新地統合校

開校年度：2022年度予定

使用校舎：相馬東高等学校の校舎

学科構成：総合学科5学級

統合校における教育活動の方向性：

- 総合学科の特色を生かし、生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた多様な科目群（系列）の設置と基礎学力の確実な定着を図る取組及びキャリア教育の充実により、地域を支える核となる人材を育成するキャリア指導推進校に位置づけます。
- 相馬東と新地の教育活動を継承し、各系列の特徴を生かした専門的な知識・技能の習得や、丁寧な学習指導・進路指導を実践することで、特色化を図ります。
- 新地の実践してきた命の教育や震災被害の伝承活動などを防災教育の観点から継承するなど、地域と連携した教育活動の充実を図ります。

検討する統合校の特色化：

生徒の学習ニーズや進路希望に合わせた丁寧な学習指導や進路指導。防災教育に関する系列の設置。

※ 休校となっている双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、富岡高等学校、双葉翔陽高等学校及びサテライト校を募集停止した相馬農業高等学校飯舘校については、今後の地域の復興の進展、住民の帰還状況、小中学校の再開状況等を考慮しながら、今後の在り方を検討していきます。

3 定時制・通信制課程の改革の方向性

定時制・通信制高等学校については、多様な入学動機や学習歴を持つ入学者が増えているため、地区ごとの配置の状況、志願動向はもとより、多様な生徒のニーズに応えられる学習環境の整備などの観点から、各校の計画期間中の方向性を以下のとおりとします。

(1) 定時制高等学校

各校の改革の方向性

地区	学校名	学科	現在	前期計画		各校の方向性
			2018年度	2023年度	期間内増減	
県北	福島工業 (定時制)	工業 (夜)	1	1	0	県内唯一の工業科の夜間部定時制 ○定時制課程工業科の特色を生かし、学ぶ意欲を高めるきめ細かな指導や体験学習を重視した、自立的に生き、社会の形成に参画できる人材の育成。 ○生徒に寄り添った生活指導や教育相談をはじめ、個に応じた丁寧な授業の実践による、生徒の学習意欲の喚起及び基礎学力の定着。 ○定通併修の制度等を活用した、3年間で卒業できる教育課程編成の継続。 ○確かな知識と技術を身に付けるための資格取得や「ものづくり」の奨励。
	保原・ 福島中央 統合校	普通 (夕)		1	1	県北地区唯一の普通科の夕間部定時制 2022年度統合予定 統合校の方向性は、42ページに記載
	保原 (定時制)	普通 (夜)	1	0	△ 1	2022年度、統合により募集停止
	福島中央	普通 (夜)	1	0	△ 1	2022年度、統合により募集停止
県中	郡山萌世 (定時制)	普通 (昼)	3	3	0	福島県全域を学区とする多部制（昼夜間）の普通科定時制 ○定時制課程の特色を生かした、生徒の多様な学習ニーズに応える教育活動とキャリア教育の展開による、生徒の進路実現及び社会に貢献する人材の育成。 ○昼間主、夜間主の2コースを設け、昼夜間の共通選択科目を履修することによる、3年間でも卒業できる教育課程の編成。 ○進路希望等に応じた科目の設定による、自ら学ぶ意欲を高める取組の推進。 ○社会人に対する科目履修制度による、県民の生涯学習の充実への寄与。
		普通 (夜)	1	1	0	
県南	白河第二	普通 (夜)	1	1	0	県南地区唯一の普通科の夜間部定時制 ○定時制課程の特色を生かした、生徒の多様な学習ニーズに応える教育活動とキャリア教育の展開による、生徒の進路実現及び社会に貢献する人材の育成。 ○「生活体験発表」や定通大会等における学習活動へ向けた手厚い指導や丁寧で継続的な教育相談による、生徒の自尊感情や自己肯定感を高める取組の推進。 ○学び直しの取組による生徒の学習意欲の喚起や、学校行事等の活性化による仲間の大切さや集団行動の楽しさを実感できる教育活動の実践。
会津	会津第二	普通 (夜)	1	1	0	会津地区唯一の普通科の夜間部定時制 ○定時制課程の特色を生かした、生徒の多様な学習ニーズに応える教育活動とキャリア教育の展開による、生徒の進路実現及び社会に貢献する人材の育成。 ○アクティブ・ラーニングによる、生徒の授業への参加と学習意欲の喚起に加え、習熟度を考慮したわかる授業と繰り返し学習による、基礎基本の定着。 ○生徒の学校生活（学習、進路、健康、就業）における悩みに真摯に向き合う個別相談の充実による、生徒の抱える課題を解決に導く取組の推進。

いわき	いわき翠の杜	普通(昼)	2	2	0	いわき地区唯一の多部制(昼夜間)の普通科定時制 ○定時制課程の特色を生かした、生徒の多様な学習ニーズに応える教育活動とキャリア教育の展開による、生徒の進路実現及び社会に貢献する人材の育成。 ○昼夜間の共通科目履修による、3年間で卒業できる教育課程の編成。 ○基礎学力の向上を目指した、ICT機器等の活用による「わかる授業」の展開。 ○規範意識と社会性の育成、進路意識の高揚を図る取組の推進及び地域との交流やボランティア活動への参加等を通じた、社会に貢献しようとする心の育成。
		普通(夜)	1	1	0	
学級数計			12	11	△1	

(2) 通信制高等学校

改革の方向性(募集定員)

学校名	学科	現在	前期計画		学校の方向性
		2018年度	2023年度	期間内増減	
郡山萌世(通信制)	普通	500	400	△100	福島県全域を学区とする県内唯一の公立通信制高等学校 ○通信制課程の特色を生かした、生徒の多様な学習ニーズに応える教育活動とキャリア教育の展開による、生徒の進路実現及び社会に貢献する人材の育成。 ○勤労者に加え、幅広い年齢層や不登校・中途退学経験者など多様な背景を持った生徒への学びの場、学び直しの機会の提供。 ○分かりやすい面接指導や学習指導による、生徒の学習意欲の喚起と、興味・関心を引き出す教育の推進による、生徒の進路実現の支援。
募集定員計(人)		500	400	△100	

定時制・通信制高等学校の再編整備の方向性

① 保原・福島中央統合校

開校年度：2022年度予定

使用校舎：福島中央高等学校

学科構成：定時制普通科1学級(夕間部1学級)

統合校における教育活動の方向性：

- 夕間部定時制という新しいタイプの定時制課程の特色を生かした、生徒の生活パターンや多様な学習ニーズに応える教育活動やキャリア教育を実践します。
- 保原定時制と福島中央の取組を継承し、わかりやすい授業の展開や個別指導などのきめ細かな学習指導により、生徒の基礎学力の定着を図ります。
- キャリア教育や教育相談の充実、学校行事の活性化等により、生徒の社会性やコミュニケーション能力を向上させ、人間的成長を支援します。

検討する統合校の特色化：

生徒の学習ニーズに合わせた柔軟な学び。個に応じた丁寧な学習指導やキャリア教育。

IV章 県立高等学校改革前期実施計画の推進に当たって

1 社会の変化に対応した高等学校づくりの推進

県立高等学校は、時代のニーズや地域からの要請に応じて設立され、その後、統合や学科改編などの変遷を経て、現在に至っています。社会の急激な変化や生徒数の減少により高等学校の小規模化はさらに進み、今後は、これまで高等学校が地域で担ってきた役割を尊重しながらも、その在り方について見直しが必要となってきました。県教育委員会は、所在市町村、地域住民、保護者に対して、改革の方向性について丁寧な説明を行うとともに、生徒の資質や能力を伸長させる魅力ある高等学校とするため、関係者とともに考え、よりよい高等学校づくりを進めていきます。

(1) 県立高等学校改革の具現化に向けて

統合等に当たっては、関係市町村、地域住民、同窓会、保護者代表、中学校関係者等から構成される**高等学校改革懇談会**をそれぞれ実施し、統合等の趣旨や学校の方向性について丁寧に説明するとともに、さらに魅力ある高等学校となるよう意見を聴取します。

その後、県教育委員会及び統合校の教職員等による**教育内容検討委員会**において、教育内容等の具体的な検討を進めていきます。

再編整備のない学校においても、校長のリーダーシップのもと、高校改革を推進する校内組織等を中心として、前期実施計画期間中の改革の方向性と想定される学級数を踏まえながら、魅力ある高等学校づくりを、教職員はもとより、地域とともに推進していきます。

(2) 本県の高等学校教育の充実に向けて

II章1で提示した高等教育の質の向上と、II章2で提示した再編整備を含めた教育環境づくりは、県立高等学校改革の両輪として、表裏一体で推進していく必要があります。県教育委員会は、県立高等学校改革前期実施計画を踏まえながら、県立高等学校の教育内容の充実のための施策をさらに推進します。

また、本県には17の私立高等学校があり、それぞれ建学の精神に基づいて特色ある教育活動を行っています。本県高等教育の充実のためには、これら私立高等学校も含め、公私が連携して体制の構築を図っていく必要があります。このため、今後、生徒数が減少する中での本県全体の募集定員や公私協調の下での学校の在り方などについて、公私立協議会等の場を活用し、私立高等学校と協議しながら検討していきます。

2 県立高等学校改革後期実施計画に向けた継続的な検証

県立高等学校改革の推進に当たっては、以下のとおり前期実施計画の進捗状況や成果、課題について適宜検証を行うとともに、地域の状況や様々な社会環境の変化も見据えながら、後期実施計画(2024年度～2028年度)の策定を行います。

- 後期実施計画期間やその後の中学校卒業見込者数の推移を注視し、前期実施計画で統合等の再編整備を行わなかった3学級以下の高等学校についても後期実施計画における再編整備を検討していきます。また、各地区の状況を踏まえた上で、都市部における県立高等学校の在り方も検討していきます。
- 前期実施計画において、統合や1学級規模の本校とすることを示した高等学校についても、その後の志願動向や地域の状況等を注視し、後期実施計画以降の在り方を検討します。

(参 考 资 料)

(参考資料1)

県立高等学校改革前期実施計画のブランドデザイン

本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくり・生徒の資質や能力を伸長させる魅力ある高等学校づくり

〇様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する教育活動の推進

〇多様な学習内容の提供及び教育の質の向上

〔※前期実施計画最終年度(2023年度)の各校の位置づけなどを示す。
※四角囲み内の2校は、統合予定の高校である。〕

2019年2月
福島県教育委員会

社会の変化に的確に対応できる生き抜く力の育成

進学指導拠点校
(4校)

福島・安積・会津・磐城

ミツシヨン 県内の学習指導、進学指導を牽引するリーダー校として、進学指導重点校との連携による教育力向上の推進。難関大学及び医学部志望者の進路実現。

育てたい生徒像 国内外で各分野のトップリーダーとして活躍する、未来を牽引できる人材。

推進する教育活動

- ①生徒の多様な興味関心や進学希望に対応する、幅広い科目選択が可能な単位の導入。
- ②生徒の意欲や創造力を引き出す探究型や課題解決型の学習。
- ③地域課題に関する討論や発表などの活動による、シチュエーション学習。
- ④外国語によるコミュニケーション能力の育成。

期待される成果(生徒の変容)

- ①思考力・判断力・表現力・知的探究心が高まるとともに、物事を科学的に思考できる力が身に付く。
- ②授業に主体的に参加し、対話的な活動を通して、より深い学びが広がる。
- ③地域、社会、政治などへの関心が高まり、他者と協働しながら課題の解決に取り組む姿勢が身に付く。
- ④外国語で意見を交換し、主張できるコミュニケーション能力・発信力や、グローバルな視点からの思考力が身に付く。

進学指導重点校
(16校)

県北	福島北 福島南 福島東	県中	安積黎明 郡山東 郡山	県南	白河 白河旭	いわき	磐城桜が丘 いわき光洋	相双	相馬 原町
----	-------------------	----	-------------------	----	-----------	-----	----------------	----	----------

ミツシヨン 授業の質の向上及び進学指導の充実と、進学指導重点校との連携による、生徒の進路希望実現。

推進する教育活動

- ①生徒の多様な興味関心や進学希望へ対応するための進学指導体制の強化。また、必要に応じた単位制導入の検討。
- ②生徒の意欲や創造力を引き出す探究型や課題解決型の学習。
- ③学びたい学習や職業を見据えたキャリア教育の強化による、生徒の意欲を引き出す進路指導。

期待される成果(生徒の変容)

- ①思考力・判断力・表現力・知的探究心が高まるとともに、物事を科学的に思考できる力が身に付く。
- ②授業に主体的に参加し、対話的な活動を通して、より深い学びが広がる。
- ③高い学習意欲を持ち、自分の将来の姿を見据えた学びを積み上げようとする姿勢が身に付く。

キャリア指導推進校
(21校)

県北	福島北 福島南 梁川・保原 統合校	県中	あさか開成 須賀川・長沼 統合校	県南	大沼・坂下 統合校	いわき	いわき総合 湯本・遠野 統合校	相双	ふたば未来学園 相馬東・新地 統合校
----	----------------------------	----	------------------------	----	--------------	-----	-----------------------	----	--------------------------

ミツシヨン 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育活動の充実による、就職から大学進学までの進路希望実現。

推進する教育活動

- ①「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成に向けたキャリア教育の視点を通じた指導の推進
- ②地域の教育機関や行政機関、企業などとの連携による、地域の教育資源を活用した教育活動の充実や、学校の状況などに応じたキャリアスクールの導入。
- ③少人数指導、ITなどの領域に応じたきめ細かな指導やアクティブラーニングの視点からの授業改善。

期待される成果(生徒の変容)

- ①様々な活動に取り組む中で、自ら適性について考え、主体的に自分の進路を切り拓いていくこととする態度が身に付く。
- ②企業でのインターンシップなどの実践的な経験により、進路希望に合った知識・技能や望ましい、勤労観・職業観が身に付き、より深い学びが広がる。

ふたば職業学園
SGH指定校としての取組や
創造的復興教育の実践。

ミツシヨン 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育活動の充実による、就職から大学進学までの進路希望実現。

期待される成果(生徒の変容)

- ①「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成に向けたキャリア教育の視点を通じた指導の推進
- ②地域の教育機関や行政機関、企業などとの連携による、地域の教育資源を活用した教育活動の充実や、学校の状況などに応じたキャリアスクールの導入。
- ③少人数指導、ITなどの領域に応じたきめ細かな指導やアクティブラーニングの視点からの授業改善。

職業教育推進校
(21校)

県北	福島商業 福島明成 福島工業 二松工業・安達東 統合校	県中	郡山商業 郡山北工業 清陵情報 岩瀬農業 統合校	県南	白河工業 統合校 修明	いわき	平工業 平商業 いわき短期 統合校	相双	相馬農業 小幡産業技術 統合校
----	---	----	--------------------------------------	----	-------------------	-----	----------------------------	----	-----------------------

ミツシヨン 大学や地域企業等との連携による実践的な職業教育の充実と、企業への就職や職業学習部などへの大学進学を支える、地域の産業振興や福島の発展を支える人づくりの推進。

推進する教育活動

- ①職業人として必要な知識・技能の習得を旨とした授業や、企業などの連携により時代のニーズに対応した先達技術に関する学習などの、高い専門性を身に付けるための職業教育。
- ②生徒の進路希望を見据えた丁寧なキャリア教育。
- ③SGHの取組や、「福島イノベーション・コースト構想」による人材育成のための教育プログラムの実践などの成果の共有。

期待される成果(生徒の変容)

- ①職業人としての心構えや資質・能力が向上するとともに、身近な地域産業の魅力や意義を認識することができる。
- ②社会的・職業的な自立につながる職業観・勤労観が身に付く。
- ③社会の第一線で活躍できる高度な知識・技能が身に付く。

小高職業訓練
SPH指定校としての取組や
Cross Training Programによる授業の実践。

ミツシヨン 先進的な教育実践や他機関との連携などにより得られた知見及び成果を他の職業高校と共有し、普及・発展させる。

地域協働推進校
(6校)

川俣・湖南・猪苗代・西会津・川口・只見

ミツシヨン 地域との協働による教育活動の充実と、地域社会を支える人づくりの推進。

推進する教育活動

- ①地域の声を学校運営や教育活動に反映させるコミュニケーション・スキルの導入。
- ②地域の教育機関や行政機関、企業など、地域との協働による、地域が抱える課題の解決に取り組む課題解決型の探究的な学びや丁寧なキャリア教育。

期待される成果(生徒の変容)

- ①地域ならではの特色ある学習体験を積み重ねることにより、地域との関わりの中で、社会人としての資質・能力が身に付く。
- ②地域を学びの場とした取組により地域への愛着や貢献意識が高まることと、適切な職業観・勤労観や、主体的に自分の進路を切り拓こうとする態度が身に付く。

定時制・通信制高校
(7校)

福島工業(定)・保原(定)・福島中央統合校 郡山萌世(定)・白河第二・会津第二・いわき翠の杜	通信制 郡山萌世(通)
---	----------------

ミツシヨン 生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育活動とキャリア教育による、生徒の進路希望実現。

推進する教育活動

- ①働きながら学校で学びたい生徒の学習機会の保障。
- ②様々な人・物・動機を持つ生徒の学び直しへの機会を捉え、関心・意欲を高めるための役割を重視した教育。
- ③丁寧なキャリア教育により、自己有用感や社会参加への意欲が高まるなど、社会的・職業的自立に必要な能力や態度が身に付く。

期待される成果(生徒の変容)

- ①自分の学びたい科目・興味・関心等に合わせた主体的に学習できる。
- ②日々の修業(定時制)やスクーリング(通信制)が、自分の可能性を高め、良質な人間関係を築き上げることができ、居場所になっている。
- ③丁寧なキャリア教育により、自己有用感や社会参加への意欲が高まるなど、社会的・職業的自立に必要な能力や態度が身に付く。

相双地区休校等
(6校)

双葉・浪江・浪江津島校
富岡・双葉翔陽
相馬農業飯館校

ミツシヨン 今後の地域の復興の進展、住民の帰還状況、小中学校の再開状況等を考慮しながら、今後の在り方を検討する。

(参考資料 2)

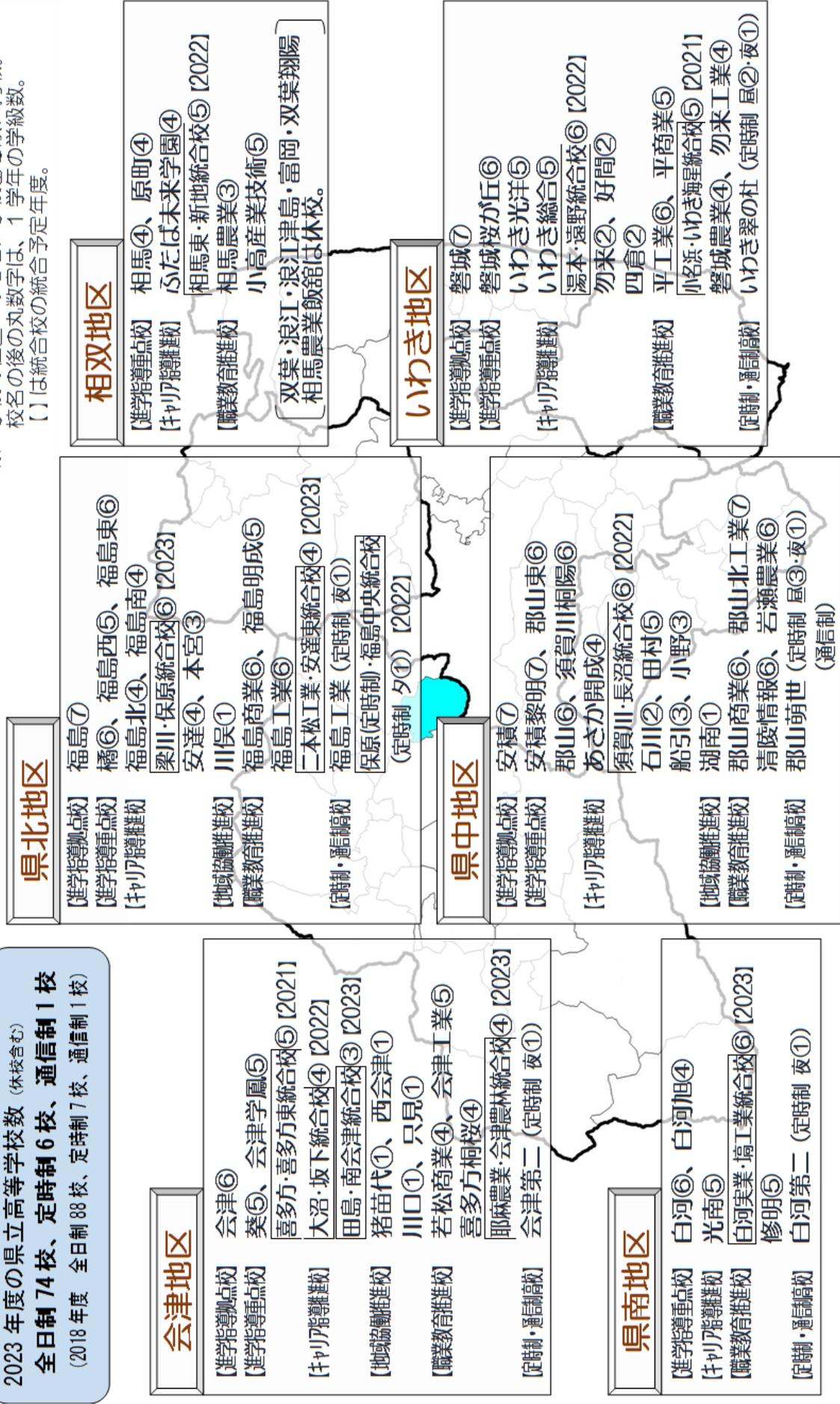
県立高等学校改革前期実施計画最終年度（2023年度）における各地区の高等学校の配置

※ 学校の位置づけごとに学校番号順に掲載。
校名の後の丸数字は、1学年の学級数。
〔 〕は統合校の統合予定年度。

2023年度の県立高等学校数（休校含む）

全日制 74校、定時制 6校、通信制 1校

（2018年度 全日制 88校、定時制 7校、通信制 1校）



福島県教育庁 高校教育課 県立高校改革室

〒960-8688 福島県福島市杉妻町2-16

電 話 024-521-7771

F A X 024-521-7973

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/kaikakushitsu02.html>
(県立高校改革のページ)

メールアドレス k.koukoukaikaku@pref.fukushima.lg.jp